

III. 地域連携

III-1. 活動成果の概要

1. 関西地区 FD 連絡協議会 第 6 回総会

本協議会の第 6 回総会が、2013 年 5 月 18 日に京都大学百周年時計台記念館において開催された。本総会では議事に先立ち、喜久里要氏（大阪大学）より「高等教育の新展開と学問の雄飛に寄せて」の題目で講演があった。議事においては、各ワーキング・グループから 2012 年度の活動報告および 2013 年度の活動方針、ならびに決算・予算計画について報告があり、承認が得られた。また、会員校の組織的 FD の取り組みに関するポスターセッション「FD 活動報告会」が実施された。本協議会設立 6 年目を迎えた今回の総会では、これまで整えてきた体制を基盤として、今後さらに大学間の連携を深めていくことが確認された。

第 6 回総会プログラム

総 会【京都大学 百周年時計台記念館】13：00～

進 行：田中 俊也（関西大学）

開会挨拶：大久保 敦（大阪市立大学大学）

講演「高等教育の新展開と学問の雄飛に寄せて」13：10～

喜久里 要（大阪大学）

議 事 14:45～

議 長：大塚 雄作（京都大学・代表幹事校代表）

- (1) 平成 24 年度活動報告について
- (2) 平成 25 年度活動方針について
- (3) 平成 24 年度決算について
- (4) 平成 25 年度予算について
- (5) 次期幹事校の選出について
- (6) 関西地区 FD 連絡協議会の今後について
- (7) その他

ポスターセッション「FD 活動報告会 2013」【国際交流ホール】16：00～

閉会挨拶：大塚 雄作（京都大学）

第6回総会の議事録を以下に記す。

【総会】

1. 開会

- ・開会に先立ち、田中俊也教授（関西大学）が会の進行役を務めることが確認された。

2. 開会の辞

- ・大久保敦教授（大阪市立大学）より、開会のあいさつがあった。

3. 講演会

- ・喜久里要氏（大阪大学）より「高等教育の新展開と学問の雄飛に寄せて」の題目で講演があった。
- ・講演後質疑応答が行われた。

4. 議事

- ・議事に先立ち、進行役の田中教授より、本協議会規約第6条第6項による出席会員校数の要件を充たしており、本総会は規約上成立することが確認された。
- ・田中教授より本協議会規約第7条第3項に基づき、代表幹事校代表の大塚雄作教授（京都大学）が本日の総会の議長となることについて説明があった。
- ・大塚議長より、あいさつがあった。

(1) 平成24年度活動報告および平成25年度活動方針案について

各ワーキンググループ（WG）の責任校より以下のとおり報告があった。

① FD 共同実施 WG（報告者：大阪大学 山口和也教授）

- ・山口教授より、平成24年度の活動及び平成25年度活動方針案について報告があった。

② FD 連携企画 WG（報告者：立命館大学 安岡高志教授）

- ・安岡教授より、平成24年度の活動及び平成25年度活動方針案について報告があった。

③ 広報 WG（報告者：大阪市立大学 大久保敦教授）

- ・大久保教授より、平成24年度の活動及び平成25年度活動方針案について報告があった。

④ 研究 WG（報告者：神戸大学 山内乾史教授）

- ・山内教授より、平成24年度の活動及び平成25年度活動方針案について報告があった。

以上、各WGの活動報告および活動方針案について、会場において了承された。

(2) 平成24年度決算案および平成25年度予算案について（報告者：京都大学学務部教務企画課 岩井信孝課長）

- ・事務局（京都大学学務部教務企画課）より、平成24年度決算案について説明があった。
- ・監査役の久世雅之氏（近畿大学）より、平成25年度決算に関して近畿大学・大阪工業大学によって監査をおこなった結果、すべて適正であった旨報告があった。平成23年度決算について、会場において了承された。
- ・事務局より、平成25年度予算案について説明があり、会場において了承された。

(3) 次期幹事校の選出について

－関西大学、神戸常磐大学・神戸常磐大学短期大学部、和歌山大学（23.4.26～25.4.25）

- ・議長より、幹事校の任期満了による交代について説明があり、次期幹事校について、立候補を募った。
- ・立候補がなかったため、議長より次期任期（本総会承認後～第7回総会まで）についても現行の体制で継続したい旨提案し、会場の了承を得た。

(4) 関西地区 FD 連絡協議会の今後について

- ・議長より本協議会費や今後の活動について、メール審議の際の意見の紹介と、それに対する回答があった。
- ・議長の説明の後、質疑応答があった。
- ・会費については、継続審議の課題とすることが確認された。

5. ポスターセッション

場所を国際交流ホールに移し、ポスターセッション「FD 活動報告会 2013」がおこなわれた（その詳細については、次項 III-2を参照されたい）。

6. 閉会の辞

- ・議長より閉会の挨拶があった。

2. 組織と実施体制

本協議会の会員校数は、2013年12月25日現在で149校（123法人）である。括弧内の「法人」の表記については、同一法人組織である大学と短期大学（部）が単一の機関として入会していることを示す。昨年2012年10月1日時点では、145校（121法人）であり、会員校数は約1年間で4校（2法人）の増加となる。会員校リストを表1に示す。

本協議会の組織図を図1に示す。本協議会の組織体制は、代表幹事校1校、常任幹事校5校、幹事校11校、監査役2校で構成されている（表2）。

本協議会の活動を推進するため、4つのWGとして「FD共同実施WG」「FD連携企画WG」「広報WG」「研究WG」が設置されている（なお、「FD情報支援WG」については、第5回総会にて解散と他WGへの合併が提案され、了承を得た。）。これらWGの活動については、本書 III-3以降で詳述されているのでそちらを参照いただきたい。なお、各WGには、円滑な運営のために、数校の幹事校によって構成される「部」が設置されている（表3）。

図1 関西地区FD連絡協議会の組織図

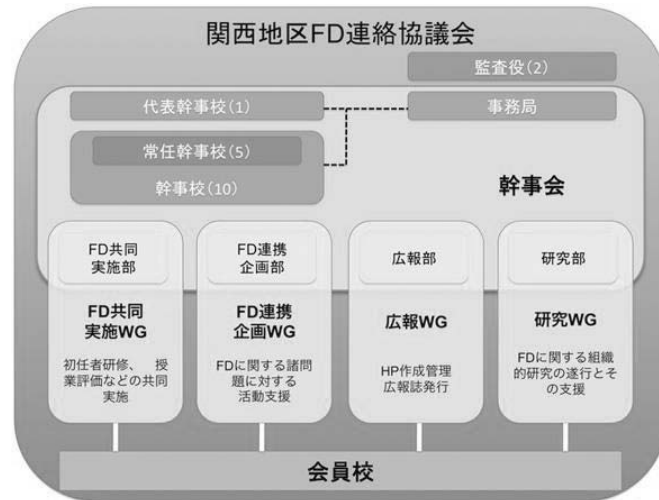


表1 会員校名リスト 2013年12月25日現在、149校(123法人)

藍野大学・藍野大学短期大学部*、芦屋学園短期大学、池坊短期大学、追手門学院大学、大阪大学、大阪青山大学、大阪医科大学、大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部*、大阪河崎リハビリテーション大学、大阪観光大学、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部*、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学*、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学・大阪薫英女子短期大学*、大阪府立大学、大阪保健医療大学、大阪薬科大学、大谷大学・大谷大学短期大学部*、関西大学、関西医科大学、関西医療大学、関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部*、関西看護医療大学、関西国際大学、関西福祉科学大学・関西女子短期大学*、関西学院大学、畿央大学、京都大学、京都医療科学大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学*、京都学園大学、京都華頂大学・華頂短期大学*、京都教育大学、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部*、京都産業大学、京都女子大学・京都女子大学短期大学部*、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都聖母女学院短期大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学、京都文教大学・京都文教短期大学*、京都薬科大学、近畿大学、甲子園大学・甲子園短期大学*、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学*、神戸親和女子大学、神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部*、神戸薬科大学、神戸山手大学・神戸山手短期大学*、堺女子短期大学、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、滋賀短期大学、四條畷学園大学・四條畷学園短期大学部*、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部*、神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学*、聖泉大学、聖和短期大学、摂南大学、千里金蘭大学、相愛大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部*、宝塚大学、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、東洋食品工業短期大学、常磐会学園大学、長浜バイオ大学、奈良大学、奈良教育大学、奈良産業大学、奈良女子大学、奈良文化女子短期大学、梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部*、羽衣国際大学、花園大学、阪南大学、東大阪大学・東大阪大学短期大学部*、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部*、びわこ成蹊スポーツ大学、佛教大学、平安女学院大学、湊川短期大学、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部*、桃山学院大学、森ノ宮医療大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部*、流通科学大学、和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学

*同一法人組織である大学と短期大学(部)が、単一の機関として入会

表2 関西地区FD連絡協議会の組織体制

代表幹事校（任期4年）	京都大学
事務局	京都大学
常任幹事校（任期4年）	大阪大学 大阪市立大学 神戸大学 同志社大学 立命館大学
幹事校（任期4年）	大阪府立大学 関西大学* 関西学院大学 神戸常盤大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 和歌山大学*
監査役（任期2年）	大阪工業大学 近畿大学

* は規約施行の最初の特例措置として、3年任期の幹事校。

表3 関西地区FD連絡協議会の5つの部

FD 共同実施部	大阪大学* 関西学院大学 京都大学
FD 連携企画部	立命館大学* 関西大学 神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部 大阪府立大学 京都大学
広報部	大阪市立大学* 和歌山大学 京都大学
研究部	神戸大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 同志社大学 京都大学

*はWGの責任校。各部に、代表幹事校（京都大学）が連絡担当として加わる

3. 幹事校会議（2013年度第1回、通算第8回）

2013年度におこなわれた幹事校会議の議事および資料について以下に挙げる。議事次第および○印を付した資料は、本節資料として示す。幹事校メーリングリストを利用した回議については省略する。

日時：平成25年4月15日（月）15：00～

場所：京都大学本部棟大会議室（本部棟5階）

議題

1. 平成24年度活動報告案について
2. 平成25年度活動方針案について
3. 平成24年度決算案について
4. 平成25年度予算案について
5. 次期幹事校の選出について〔任期満了による交替〕
6. 関西地区FD連絡協議会の今後について
7. その他

（配付資料）

- 資料－1 関西地区FD連絡協議会幹事会（第8回）出席者名簿（本節資料1）
- 資料－2 平成24年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕（本節資料2）
- 資料－3 関西地区FD連絡協議会会員校一覧・大学連絡先（平成25年4月15日現在）
- 資料－4 関西地区FD連絡協議会幹事会（第7回）議事録（案）（平成24年2月20日開催）

- 資料－5 FD共同実施WG活動報告・活動方針案 (本節資料3)
- 資料－6 FD連携企画WG活動報告・活動方針案 (本節資料4)
- 資料－7 広報WG活動報告・活動方針案 (本節資料5)
- 資料－8 研究WG活動報告・活動方針案 (本節資料6)
- 資料－9 平成24年度関西地区FD連絡協議会決算書(案)
- 資料－10-1 平成25年度関西地区FD連絡協議会予算書(案1)
- 資料－10-2 平成25年度関西地区FD連絡協議会予算書(案2)
- 資料－11 メール審議(平成25年3月8日送付)に対するご意見
- 資料－12 関西地区FD連絡協議会に関するアンケート結果
- 資料－13 平成26年度、平成27年度予算素案
- 資料－14 FD活動報告会ポスター発表校一覧
- 資料－15 関西地区FD連絡協議会第6回総会プログラム(案)
- 資料－16 関西地区FD連絡協議会第6回総会『当日の手順』(案)

参考資料－1 「関西地区FD連絡協議会」規約

参考資料－2 関西地区FD連絡協議会会費取扱要領

(田中 一孝)

関西地区FD連絡協議会幹事会（第8回）出席者名簿

平成25年4月15日

幹事校名	幹事会出席者			備考
	部署名	役職	氏名	
大阪大学	全学教育推進機構	企画開発部長・教育 学習支援部門長	竹村治雄	常任幹事校
大阪市立大学	大学教育研究 センター	学長特別補佐・ 副所長・教授	大久保敦	常任幹事校
神戸大学	大学教育推進機構	教 授	山内乾史	常任幹事校
同志社大学	学習支援・教育開発 センター事務室	事 務 長	井上真琴	常任幹事校
立命館大学	教育開発推進機構	教 授	安岡高志	常任幹事校
〃	教育開発支援課	課 長	佐々木浩二	
大阪府立大学	高等教育推進機構	学長補佐・ 高等教育推進機構長 副機構長	高橋哲也	幹事校
〃	教育推進課	課 長	柳嘉夫	
関西大学	教育開発支援 センター	センター長	田中俊也	幹事校
〃	授業支援グループ	職 員	竹中喜一	
関西学院大学	高等教育推進 センター	センター副長	北村昌幸	幹事校
〃	高等教育推進 センター		中村洋右	
神戸常盤大学・神戸常盤 大学短期大学部	保健科学部	教 授	松田光信	幹事校
龍谷大学・龍谷大学短期 大学部	大学教育開発 センター	センター長	長谷川岳史	幹事校
〃	教学企画部	課 長	河村由紀彦	
和歌山大学	教育企画課	課 長	山田博文	幹事校
京都大学	高等教育研究開発推 進センター	センター長・教授	大塚雄作	代表幹事校
〃	〃	教 授	松下佳代	
〃	〃	教 授	飯吉透	
〃	〃	准 教 授	溝上慎一	
〃	〃	准 教 授	田口真奈	
〃	〃	准 教 授	酒井博之	

Ⅲ-1. 資料2

■平成24年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕

年月日	会議等	内容	備考
24.4.17	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
24.4.20	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会（第6回） ①次期代表幹事校・幹事校の選出について ②規約第10条に基づくワーキング・グループに関する申合せについて ③平成23年度活動報告案について ④平成24年度活動方針案について ⑤平成23年度決算案について ⑥平成24年度予算案について ⑦その他	会場：京都大学本部棟大会議室 ◆代表幹事校・幹事校、監査校の継続を決定 ◆情報WGの解散を決定 ◆平成23年度活動報告案・平成24年度活動方針案の決定 ◆平成24年度予算案の決定 ◆平成23年度決算案の決定 会計監査は監査校（大阪工業大学、近畿大学）により実施のうえ、総会に提出する旨了承 ◆FDの実態調査についての結果を報告し、総会で発表する旨了承 ◆総会におけるFD活動報告会：発表17校（20件）およびピアレビュー依頼60校について了承 ◆次年度総会より、会員校は3年に1度、ポスター発表を原則義務化する案了承
24.4.25	（全会員校）	関西地区FD連絡協議会第5回総会のご案内	
24.5.19	総会	関西地区FD連絡協議会総会（第5回） ①次期代表幹事校・幹事校の選出について ②平成23年度活動報告案について ③平成24年度活動方針案について ④平成23年度決算案について ⑤平成24年度予算案について ⑥その他	会場：京都大学芝蘭会館 参加会員校：53校 総会出席者：113名 総会の定足数に満たなかったため、後日、欠席校に総会資料を送付し、了承を得ることで総会の成立とする旨了承 ①次期代表幹事校・幹事校は現状を維持することについて会場内で承認 ②③活動報告（ワーキング・グループ） FD共同実施WG：山成 教明教授（大阪大学） FD連携企画WG：安岡 高志教授（立命館大学） 広報WG：大久保 敦教授（大阪市立大学） 研究WG：山内 乾史 教授（神戸大学） ④平成23年度決算案を会場内で承認 会計監査は監査校（大阪工業大学、近畿大学）により実施された旨報告 ⑤平成24年度予算案を会場内で承認 ⑥次年度総会より、会員校は3年に1度、ポスター発表を原則義務化する旨会場内で承認 FD活動報告会：発表17校（20件）ピアレビュー29校
24.5.24	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
24.5.24	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：京都大学
24.5.29	（総会欠席校）	関西地区FD連絡協議会第5回総会につきまして	◆欠席校に総会資料を送付のうえ審議。全ての議題について了承
24.6.1	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：関西大学
24.6.11	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
24.6.21	（全会員校）	関西地区FD連絡協議会会費の納入につきまして（お願い）	
24.7.2	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会（大学/短期大学（部）併設校）一括取り扱い申し込みについて	◆一括取り扱い：京都華頂大学・華頂短期大学
24.7.6	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：関西学院大学
24.8.10	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：京都大学
24.8.24	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：大阪大学
24.8.30	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申込について	◆新規入会：宝塚大学
24.9.19	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申込について	◆新規入会：梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部
24.10.31	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：関西大学
24.11.2	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：京都大学
24.11.19	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：京都大学
24.11.26	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
24.11.26	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：神戸大学
24.11.27	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：龍谷大学
24.11.29	（幹事校）	関西地区FD連絡協議会第6回総会の日程について	◆第6回総会を平成25年5月18日に開催する旨了承
24.12.18	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会入会申込について	◆新規入会：大阪河崎リハビリテーション大学
25.1.11	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：大阪大学
25.1.17	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会（第7回）のご案内	会場：京都大学吉田南1号館106会議室 ◆事務局職員給与の会費からの支出について ◆会費の値上げの可能性について ◆平成25年度以降の事務局について ◆幹事校の構成について ◆その他
25.1.25	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：京都大学
25.2.15	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：大阪大学
25.2.20	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会（第7回） ①事務局職員給与の会費からの支出について ②会費の値上げの可能性について ③幹事校の構成について ④その他	◆事務局職員雇用経費を会費から支出する案、および会費取扱要領を改訂する案について会員校に諮る事を了承 ◆関西地区FD連絡協議会の今後について、会員校にアンケートを実施する旨決定 ◆幹事校の構成について、現状を維持する方針を了承
25.2.25	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
25.2.25	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会共催依頼について	◆共催：滋賀県立大学
25.2.27	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会主催講演会の開催について	◆共同主催：神戸大学
25.2.28	幹事会【回議】	関西地区FD連絡協議会協賛依頼について	◆協賛：関西大学
25.3.8	メール審議 （全会員校）	関西地区FD連絡協議会（メール審議）会費からの事務局職員雇用経費の支出と会費取扱要領の改訂につきまして	◆事務局職員雇用経費を会費から支出すること、および会費取扱要領を改訂することについて了承
25.3.18	幹事会【報告】	関西地区FD連絡協議会（大学/短期大学（部）併設校）一括取り扱い申し込みについて	◆一括取り扱い：藍野大学・藍野大学短期大学部
25.3.25	幹事会	関西地区FD連絡協議会幹事会（第8回）のご案内	会場：京都大学総務部大会議室 ◆平成24年度活動報告案について ◆平成25年度活動方針案について ◆平成24年度決算案について ◆平成25年度予算案について ◆次期幹事校の選出について ◆関西地区FD連絡協議会の今後について ◆その他

FD 共同実施 WG 活動報告・活動方針案

1. FD 共同実施 WG の目的と組織体制

FD 共同実施 WG は、初任者研修の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行う。FD 共同実施 WG2012 は、WG2011 を引き継ぎ、大阪大学（常任幹事校）、関西学院大学（幹事校）、京都大学（代表幹事校）（以上 FD 共同実施部）、大阪歯科大学、大阪成蹊短期大学、大阪樟蔭女子大学、関西看護医療大学、畿央大学、京都文教大学、京都文教短期大学、神戸大学、滋賀県立大学、夙川学院短期大学、びわこ成蹊スポーツ大学、平安女学院大学、立命館大学、龍谷大学、和歌山大学（50 音順）で構成されている。

2. 2012 年度活動報告

2012 年度は、初任教員向けプログラムの企画・運営（2-1-1）およびその評価（2-1-2）を行った。また、認知度を高めることによって、多くの会員校の研修会の公開と公開された研修会への参加を促すために、チラシ（資料 1）を作成した（2-2）。共同実施ワーキンググループの活動目的は昨年度に引き続き、以下の 2 点である。今年度については、2. の研修会開催支援は、申し込みがなく、実現されなかった。

1. 「初任教員向けプログラム」（通称：カンジュニ）を実施すること
2. 単独では FD 研修会の開催が困難な大学に対して、研修会開催に向けた様々な支援を行うこと。

2-1. 初任教員向けプログラム（愛称：カンジュニ）の企画・運営と評価

2-1-1. 初任教員向けプログラムの企画・運営：概要とプログラム

「初任教員向けプログラム」とは、現在、関西 FD 加盟校で実施されている研修会のうち「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとするものである。関西 FD では、研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供する（図 1）。

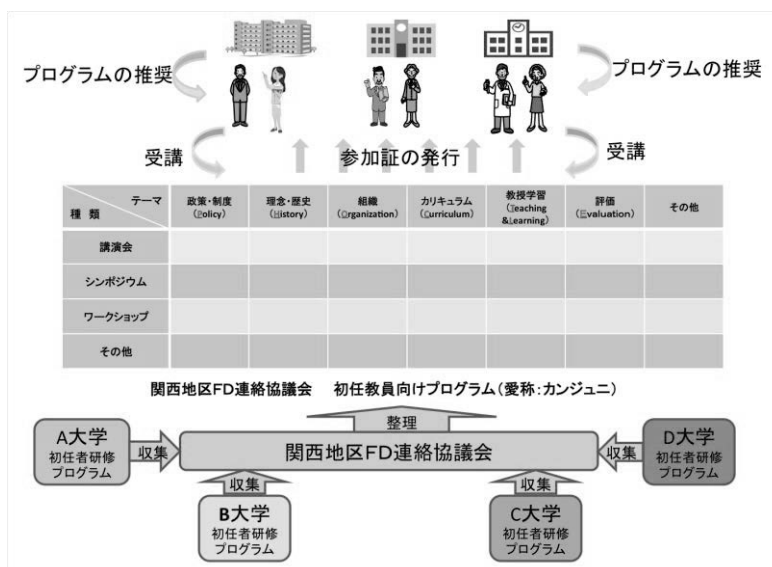


図 1. 初任教員向けプログラムの概略

2012年度は合計4大学9回の研修会が公開され、関西地区FD連絡協議会より「初任教員向けプログラム」として80名以上の参加者があった(表1)。また、2-1-2で示すように、初任教員向けプログラムの評価を行うため、事後アンケートを実施した。広くこの制度を案内するためのポスターを作成し、会員校に配布した(資料1)。それぞれのプログラムやその概要については、ウェブページに随時掲載していることから、ウェブページへの誘導、新規に開設された「関西地区FD連絡協議会」メーリングリスト(加盟大学の教職員であれば誰でも参加できるメーリングリスト)への登録を案内することを意図して作成した。

表1. 2012年度に公開された各大学の研修会のテーマと参加人数、事後アンケート回答者数

開催日時	開催大学	講座名	参加者数	アンケート回答者
2012.3.28	大阪大学	共通教育ワークショップ「対話授業とは何か」	7人	2人
2012.5.6	滋賀県立大学	授業の基本と授業づくり	12人	9人
2012.5.25	滋賀県立大学	授業の方法―入門編2:数式を扱う授業のために―	9人	1人
2012.6.22	滋賀県立大学	授業の方法―入門編3:視聴覚教材を用いる授業のために―	5人	2人
2012.7.27	滋賀県立大学	授業の方法―入門編4:授業に学生を「参加」させるには―ワークショップ	13人	4人
2012.9.10-11	関西学院大学	大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」	10人	10人
2012.9.26	大阪大学	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修	1人	1人
2012.10.10	京都大学	第84回公開研究会 ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化	21人	-
2013.1.9-10	滋賀県立大学	科学的和文作文法講座 公開授業・検討会―卒業論文等の作文指導で悩んでいる先生方のために―	8人	6人

2-1-2. 初任教員向けプログラムの評価：事後アンケート結果

初任教員向けプログラムに参加した教職員に対して、事後アンケートを実施した。実施は(1)「対話授業とは何か」から(7)「大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修」の8回の研修会で行われ、合計35名がアンケートに回答した。以下に、アンケートの回答を示す(欠損値あり)。質問4-8については、自由記述によるアンケートであったため、回答を内容ごとに整理し、それぞれの内容についての記述例を紹介する。

質問 1.あなたはどのような立場で今回の研修会に参加しましたか（複数回答可）

- 新任教員として：15名
- 学内のFD担当委員として：6名
- 新任教員ではないが研修会に関心を持って：16名
- 事務職員として：1名
- その他：2名（教務委員として、教務委員会からの依頼）

質問 2.あなたは今回の研修会のことをどのようにして知りましたか（複数回答可）

- 学内のビラ・ポスターから：3名
- 関西FDのHPから：1名
- FD業務を担当する教職員から：22名
- その他の教職員から：1名
- 関西FDからのEメールによる案内で：9名
- その他：3名（職場の研究者から、関西FDからのEメールの転送メールから、学内メールで）

質問 3.あなたは今回の研修会に参加したきっかけは何ですか（複数回答可）

- 大学から参加するよう指示があったから：4名
- FD担当委員の業務として参加する必要があったから：2名
- 自分の教育能力を高めたかったから：28名
- 大学教育を考える機会が欲しかったから：11名
- 実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから：15名
- 研修会の内容そのものに興味をもったから：19名
- 他大学の研修会に参加してみたかったから：6名
- その他：1名（教務委員として誰か一人参加することになっているので。）

質問 4.今回の研修会で参考になった点をお書きください（自由記述）

- ワークショップの具体的な例はもちろんですが、講師のコミュニケーション教育に対するお考えや、「コンテキスト」という概念が、教育だけでなく研究にとっても参考になりました。
- 発問の重要性について学ぶことができた。ルーブリックや授業のちょっとした工夫等、すぐにでも取り入れたいと思う。

質問 5.今回の研修会で改善したほうがよい点をお書きください（自由記述）**【開催場所について】**

- 学外から参加した者にとっては、会場の場所がわかりにくかったです。チラシにあった建物の名前が学内の案内図に載っていませんでした。
- 場所が不便に感じました。今回は休日でしたので遠くてもいいのですが、バスや電車の本数が多いところにしてほしいと思いました。

【開催期間について】

- 講師の先生もおっしゃってたように、もともと3日間のプログラムを2日間にするには無

理があるように思います。(ただ矛盾していますが、3日間になると参加しにくくなるようにも思います・・・)

【参加条件について】

- 私の先輩も参加したかったみたいですが、新任向けとなっていましたので今回は辞退しておられました。教育経験のある方もいらっしゃると思いますので、そのような方でも参加できるのであれば、周知のポスターに誤解のないように明記した方がよいと思いました。
- 参加の縛りが、「教歴 10 年未満」であれば、30 名集まったかもしれません。「スキルアップしたい方によりオープンに」という意味です。

質問 6. 今回の研修会全体の感想についてお書きください (自由記述)

- 開催テーマが明確ですので、受講者は参加しやすいのではないかと考えます。受講する側は「そのテーマに関する情報を収集」することを目的にしていると考えますので、講師の方と講義中でも直接話が聞ける点は非常に有益な環境だと感じました。
- 自分の授業で感じていた疑問やダメな点が、よくわかりました。改善していくうえで、大変参考になりました。
- 自由で良かった。参加証明書が貰えて良かった。
- 参加人数がほどよい人数 (16 人) で良かったのではないかと思います。おかげで、リラックスして双方向的な研修になりました。ほどよく休憩時間が入り、疲れなかったと思います。自身でもそれなりの年数を教えているので、自身のこだわりや意見があるのですが、改めてこの研修に出て、自身の至らない点や、考えもしなかった点を勉強することができました。
- 授業を行う際のノウハウを知ることができてよかったですと思います。またこのような研修会があれば参加したいと思います。
- 目指すべき方向性や工夫する方法など、具体的なヒントを豊富にいただけるので、すぐにも実践してみようと、前向きな気持ちになります。

質問 7. 今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください (自由記述)

【有意義な制度である】

- 私は、今年度から首都圏の私大から関西圏の国立大に転任してきましたのですが、私大と国立大では事情や FD に関する考え方等、多くのことが異なり、毎日勉強になります。今回、また別の大学での研修会に参加し、さらに視野が広がったように感じます。もしかすると、新任や転任の先生よりもむしろ、同じ大学でずっと教えている先生の方が、他大学での研修会に意義があるかもしれないと考えました。
- 所属する大学の研修会だけだと、年間に開催される時期や内容が限定されるので、他大学の研修会を利用できるのは、よい制度だと思う。また、異なる大学の教員と情報交換できるよい機会となる。

【他大学の教員と交流することのメリット】

- 自分の大学だけでなく、他大学の先生と一緒に受講できるのは、視野が広がり交流のきっかけとなるため良い制度であると思います。
- 非常に有難い制度だと考えます。交通費の支給等、参加しやすい環境を整備していただいているので、積極的に参加することができます。学内だけでは慣れ合いになってしまうと

ころを、他大学の熱心な取り組みを知る機会にもなり、大変勉強になりました。

- 他大学を訪れることも新鮮な気持ちになると思います。また、開講日時や場所などで都合が合えば、参加してみたいと思いました。
- 他大学の教育環境も見せていただいたり、他大学の先生方と知り合える機会にもなり出向くこと自体は日程調整など大変な面もありますが、いい制度だと思います。

【独力で研修会を実施することが困難な大学に対する支援として有効】

- 私が所属している短大のように、単独で研修会を開催することの難しい大学の教員にとっては、非常にありがたい制度だと思います。

質問 8. この質問は FD 担当委員として参加された方のみにお聞きします。自校の研修会を企画する上で、今回の研修会に参加して参考になった点・参考にはならなかった点をそれぞれお書きください（自由記述）

- 今回の研修会は委員としてとても参考になった。本校は開学したばかりで、私を含め、助手は教育現場が初めての者がほとんどである。「自分たちの頃と今の学生は違う」という感覚があるが、どう関わるか悩むことが多い。そこへの関わり方を学べたので、本学の FD 委員会で報告し、研修等を企画していきたい。
- 参考になった点：新任教員への研修のあり方、所属感を高めるための取り組み
参考にならなかった点：特になし。

2-2. 認知度を高めるための広報活動

広くこの制度を案内するためのチラシを作成し、会員校に 50 部ずつ配布した。それぞれのプログラムやその概要については、ウェブページに随時掲載していることから、ウェブページへの誘導、新規に開設された「関西地区 FD 連絡協議会」メーリングリスト（加盟大学の教職員であれば誰でも参加できるメーリングリスト）への登録を案内することを意図して作成した。

3. 2013 年度活動方針案

3-1. 初任教員向けプログラムの充実と拡大

現行の「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」の企画・運営と評価、FD 研修会開催支援を継続させる。そして、「初任教員向けプログラム」への参加プログラムを増加させるとともに、すでに参加されているプログラムの充実を目指す。具体的には、

1. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」を広報し、多くの大学からの参加を促す。
2. ニーズのあるプログラムの新規開発を支援し、「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」を充実させる。
3. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」に公開されているプログラムについて、希望により事後検討会を実施し、プログラムの充実をはかる。

3-2. 予算（案）

1. ポスター作
2. プログラムの新規開拓のための費用
3. 事後検討会（研究会）開催のための費用（5 回程度実施）

関西 FD 共同実施 2013 年度予算案

品目	内訳	金額
1 初任教員向けプログラム (カンジュニ) 広報	パンフレット・ポスター・ホームページ作成・発送	¥150,000
2 初任教員向けプログラム 新規開拓のための費用	研修会参観交通費	¥10,000
	研修会開催補助(講師謝金、広報等)	¥50,000
	アルバイト謝金(1名×3回)	¥30,000
3 事後検討会(研究会)開催 のための費用(5回程度実 施)	雑費	¥10,000
合計		¥250,000

※「1. パンフレット・ポスター・ホームページ作成・発送」は 2010 年度の実績より算出

※「3. 雑費」は事後検討会時のお茶、資料印刷代など(1回 2000 円×5回)

以上

FD 連携企画 WG 2012 年度活動報告・2013 年度活動方針案

2013.4.15 幹事校会議

立命館大学、関西大学、神戸常盤大学、京都大学

1. FD 連携企画 WG の目的と組織体制

1-1. 目的

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ（問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など）を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントではなく、継続的に情報交換しながら、協働的に教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティ形成を支援する。テーマの一般化を急がず、できるだけ各大学のローカルティに根ざしたコミュニティとなるようにする。また、できるだけ、まだ組織化されていないテーマを掘り起こすようにする。

1-2. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ (WG) は、2013 年 4 月現在、以下の大学で構成されている（氏名は代表のみ、敬称略）。

◇FD 連携企画部

- ・立命館大学（安岡高志）……責任校
- ・関西大学（田中俊也）
- ・神戸常盤大学（松田光信）
- ・京都大学（松下佳代）……事務局

◇関西 FD パイロット校

- ・神戸常盤大学（松田光信）：2008.5～（2011.5 更新）
 - ・藍野大学医療保健学部理学療法学科（平山朋子）：2009.3～（2012.4 更新）
 - ・大阪府立大学（新井隆景／高橋哲也）：2012.1～
- ※パイロット校の認定期間（3年間・更新可）

◇FD 連携企画 WG

上記の 6 校

+京都精華大学共通教育センター（高橋伸一）……2011 年度より参加 計 7 校

2. 2012 年度活動報告

2-1. 単行本の刊行

FD 連携企画 WG が 2008 年度より行ってきた「思考し表現する学生を育てる」というテーマのシンポジウムやワークショップの成果をまとめて、関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるためのライティング指導のヒント』（ミネルヴァ書房、2013 年 3 月、A5・272 ページ、定価 2,800 円）を刊行し、本協議会の全会員校に各 1 冊配布した。本書所収の図表の一部も、著者の許可を得て、関西 FD ウェブサイトに掲載している。FD 研修等にぜひご活用願いたい。

【目次】

イントロダクション——ライティングを指導するということ
 (松下佳代・田川千尋・坂本尚志)

I ライティング指導のフレームワーク

第1章 思考し表現する力を育む学士課程カリキュラムの構築
 ——Writing Across the Curriculum を目指して (井下千以子)

II レポート・論文の作成指導

第2章 「十字モデル」で協同的に論文を組み立てる (牧野由香里)

コラム1 「十字モデル」を使った試み

——卒業研究の「プレゼミ」として (齊尾恭子・橋寺知子)

第3章 モジュールに基づいた小論文作成技法 (小田中章浩)

III 初年次教育

第4章 初年次アカデミック・リテラシー科目「日本語の技法」(薄井道正)

第5章 自己省察としての文章表現

——「日本語リテラシー」の教育実践を事例として (谷 美奈)

IV 学士課程を通じたライティング指導

第6章 専門教育・卒業論文につなげる初年次教育

——ピア・サポートの取り組み (土井健司・小田秀邦)

第7章 読書感想文から臨床実習報告書までのライティング指導 (高橋泰子)

V 卒論・ゼミ指導

第8章 自分のテーマを2年間かけて卒論に仕上げる

——学びのコミュニティづくりとグループ学習の技法 (北野 取)

VI 理系のライティング指導

第9章 論文作成のための科学的和文作文法指導 (倉茂好匡)

コラム2 大講義で書くことを通じて学ばせる (矢野浩二郎)

第10章 工学系のためのライティング指導

——導入教育から実験レポートまで (池田勝彦)

VII コピペ問題とコピペ対策

第11章 コピペ問題の本質 (杉光一成)

第12章 コピペ対策の実践——コピペ検出システム (花川典子)

おわりに (安岡高志)

巻末資料1 「論文の書き方」本から見るライティング指導の位置 (坂本尚志)

巻末資料2 関西地区FD連絡協議会・FD連携企画WGシンポジウム・ワークショップ(2008年度～2011年度)の概要 (田川千尋)

索引



買い取り分はすべて京都大学高等教育研究開発推進センターの特別経費より支出し*、全会員校に各1冊、著者に各10冊、WGメンバー校に各3冊送付した。なお、送料、非会員校執筆者(3名)への執筆料は、2012年度予算より支出することとした**。

*2,240円/冊(2,800円×0.8)×425冊=999,600円

**執筆料:114,000円(3名) 送料:14,480円

3. 2013 年度活動方針（案）

3-1. ワークショップの開催

- ・テーマ：「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング支援—思考し表現する学生を育てるV—」（*検討中）
 - * 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」（関西大学・津田塾大学）の一環として位置づけ、関西大学・津田塾大学共同主催、関西地区 FD 連絡協議会共催として実施する。
- ・日時：2013 年●月●日（土）（*検討中）
- ・場所：関西大学千里山キャンパス
- ・定員：40 名程度 *検討中
- ・タイムテーブル（案）
 - 13:00～13:10 開会あいさつ
 - 13:10～14:10 講演
 - 14:10～14:40 事例紹介
 - 15:00～16:45 グループワーク（分科会形式で）
 - ・段階別…初年次教育、専門教育、卒論指導など
 - ・問題別…書くことの評価、指導の組織体制、コピペ対策など
 - 17:00～18:00 全体討論

3-2. 関西 FD パイロット校の活動

昨年度に引き続き、パイロット校は以下のテーマで活動を行い、WG はその活動を支援する。

神戸常盤大学・ 神戸常盤大学短期大学部	FD の学科間連携
藍野大学 医療保健学部理学療法学科	学生の学習成果の評価（OSCE）にもとづく授業改善や科目間連携
大阪府立大学	IR（Institutional Research）にもとづく授業・カリキュラム改善、学士の質保証

4. 予算（案）

4-1. 支出

- ・『ライティング指導のヒント』購入（ワークショップ用） 9 万円程度*
 - *2,240 円（2,800×0.8）/名×40 名=89,600 円（*検討中）

4-2. 収入

- ・資料代：計 100,000 円（2,500 円/名×40 名）程度（*検討中）
 - *ワークショップにおいて、『ライティング指導のヒント』を参考資料として使用することとし、資料代を徴収する。今回は、関西大学・津田塾大学共同主催、関西 FD 共催のため、会員校・非会員校の区別なく 1 冊あたり 2,500 円とする。購入経費との差額については、本協議会の会計に入れる。

広報ワーキンググループ活動報告・活動方針案

1. 広報ワーキンググループ（WG）の目的と組織体制

1-1. 目的

広報 WG は、本協議会に関する広報業務をおこなう。具体的には、(1) ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、(2) ニュースレターの発行（年 2 回）、(3) FD 活動報告会の関連業務（MOST 講習会の共催、報告書作成）を実施する。

1-2. 組織体制

広報部は以下のように構成されており、2013 年 4 月現在、部と WG の構成員は一致している（敬称略）。2012 年度末に、和歌山大学と京都大学に構成員の変更があった。

- ・大阪市立大学（大久保敦）・・・責任校
- ・和歌山大学（藤永博）
- ・京都大学（酒井博之、田中一孝）・・・連絡担当

2. 2012 年度活動報告

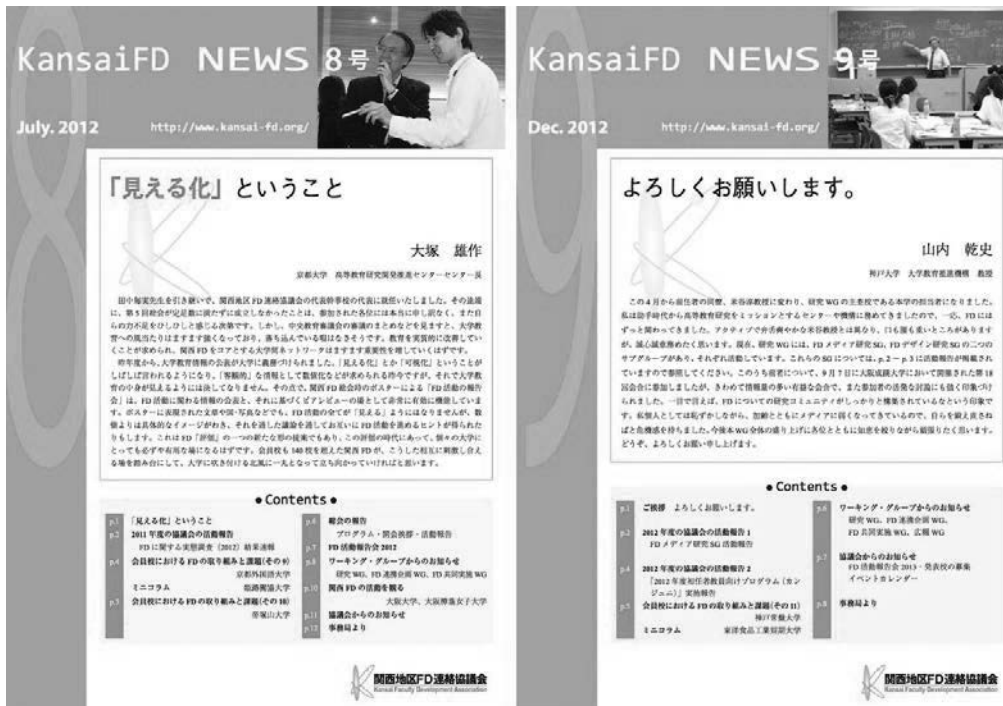
2-1. ニュースレターの発行

ニュースレターについては、第 8 号（7 月、編集責任者：伊東千尋（和歌山大学））、第 9 号（12 月、編集責任者：伊東千尋（和歌山大学））の 2 号を発行した（図 1）。900 部作成し、全会員校および原稿執筆者宛に送付した。非会員校についても入会を促すため各号 1 部を送付した。また、ニュースレターの PDF 版を協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

2012 年度は、前年度に引き続き、協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各 WG からのお知らせのほか、会員校間の FD 活動に関する情報共有を促進するため、個別の会員校における FD の取り組み紹介を充実させてきた。第 8 号（タイトル：『見える化』ということ）では、第 5 回総会、本協議会主催イベントの報告に加え、京都外国語大学、姫路獨協大学、帝塚山大学、大阪大学、大阪樟蔭女子大学より活動報告がなされた。また、研究 WG と京都大学高等教育研究開発推進センターが実施した、関西地区の大学・短大等を対象とした FD に関する実態およびニーズ調査の結果速報および、総会と同日に開催された「FD 活動報告会 2012」についての報告もなされた。第 9 号（タイトル：「よろしくお願ひします」）では、FD メディア研究 SG、FD 共同実施 WG によるカンジュニの活動報告のほか、神戸常盤大学、東洋食品工業短期大学より活動報告がなされた。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会ウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなった（図 2）。2012 年度は、ウェブサイトの継続的なコンテンツの更新をおこなった。



(a) 第8号

(b) 第9号

図1 関西地区FD連絡協議会 ニュースレター



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

2-3. 「FD 活動報告会」 関連業務

2012 年度総会にて開催された FD 活動報告会 2012 の報告書を作成し、ニュースレター第 8 号と合わせて会員校に送付した（図 3）。また、FD 活動報告会におけるポスター発表の原稿作成は MOST（<https://most-keep.jp>）を利用することが推奨されており、システム利用のための講習会を 3 月 1 日に京都大学高等教育研究開発推進センターと共催した。MOST 講習会のプログラムを資料に示す。



図 3 FD 活動報告会報告書（画像は 2011 年度のもの）

3. 2013 年度活動方針案

3.1 ニュースレターの発行

本協議会のニュースレターを 2 度発行する。前年度に引き続き、本協議会における活動報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。ただし、本協議会の活動費削減を受け、今年度より冊子媒体は廃止し、PDF 版のみを作成することとする。ウェブやメーリングリストを通じて会員校の構成員に広く配信する。

- ・ 第 10 号（7 月頃）

内容（案）：2013 年度総会報告、協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

※「FD 活動報告会 2013」の報告書（PDF 版）と同報する予定

- ・ 第 11 号（1 月頃）

内容（案）：協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

3.2 ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

前年度に引き続き、協議会ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理をおこなう。

3.3 FD 活動報告会の関連業務

2013 年度の総会と合わせて開催される「FD 活動報告会 2013」の報告書を作成し、ニュースレター第 10 号に同報する形で会員校に送付する。ニュースレター同様、今年度より PDF 版のみの作成とする。また、翌年度の報告会のための MOST 講習会を京都大学と共催する。

4. 2013 年度予算（案）について（別紙参照）

◆2013 年度予算（案） 497,270 円

1) ウェブサイト関連

- ・ドメイン維持費 年額 4,620 円
- ・サーバー維持費 年間 50,400 円 (@4,200 円×12 ヶ月)

2) ニュースレター関連

- ・ニュースレター第 10 号作成費 63,000 円 (12 頁、PDF 版のみ)
- ・ニュースレター第 11 号作成費 42,000 円 (8 頁、PDF 版のみ)
- ・総会テーブル起こし費 26,250 円

3) 「FD 活動報告会 2013」関連

- ・報告書作成費 200,000 円 (PDF 版のみ)
- ・文房具 111,000 円 (FD 活動報告会用、トナー・ロール紙等)

※報告書印刷は PDF 版のみに変更

※FD 活動報告会の会場設営費・アルバイト費等は除く

以上

MOST 講習会

日 時：2013年3月1日（金）14:30～17:00

場 所：京都大学吉田南1号館 1共23教室（下記の会場地図参照）

主 催：京都大学高等教育研究開発推進センター

共 催：関西地区FD連絡協議会 広報WG

概 要

来る5月18日開催の関西地区FD連絡協議会第6回総会では、会員校のFD活動に関わる報告を、ポスター発表の形式で実施する「FD活動報告会2013」が予定されています。会員校のFD活動をオンライン上で共有・蓄積するために、ポスター発表の原稿は“MOST”と呼ばれるオンライン・システム(<https://most-keep.jp/>参照)で作成するとたいへん便利です。本講習会は、関西FD会員校の教職員を対象に、総会での発表原稿を実際にMOSTを利用して作成するものです。本協議会会員校に所属する教職員の方はどなたでも参加できます（ただし1法人につき2名まで）。ふるってご参加下さいますようお願いいたします。

※MOST (Mutual Online System for Teaching & Learning : モスト) は、大学教員の教育研修のためのオンライン支援システムです。

参加条件：関西地区FD連絡協議会会員校に所属する教職員。5月18日開催の本協議会総会において、ポスター発表をおこなう会員校を優先します。定員は30名。

※PC操作をおこないますので、実際にMOSTを利用される教職員のご参加を推奨します。

※できましたら各自ノートPCをご持参下さい。貸出用のノートPCも準備しております（先着順）。

講習会参加にあたって：参加される方は、講習会当日、「発表原稿に用いる予定のテキストや図表などの電子データ」をご持参下さい。事務局でもテスト用の画像やテキストを準備しますが、ポスター作成を効率的に行うため、できる限りデータをご持参下さい。

また、可能であれば「取り組みに関連する画像データ」「貴学／貴部局のロゴマーク」もご持参下さい。

※参考（作成原稿イメージ）：<https://most-keep.jp/keep25/toolkit/html/snapshot.php?id=33695268103569>

参加費：無料

参加方法：下記の関西地区FD連絡協議会ウェブサイトから、「FD活動報告会2013」の申込みフォームをご利用下さい。

申込みフォーム：<http://www.kansai-fd.org/peer-review2013.html>

※MOST講習会のみ参加を希望される方は、以下の問い合わせメール宛に個別にご連絡下さい。講習会の内容はポスタ

一原稿作成向けに構成しておりますので、その点ご了解下さい。

問い合わせ先：peer-review@kansai-fd.org（担当：酒井）

プログラム

- 14:00 受付開始
- 14:30 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明
- 14:40 操作説明
- 15:20 参加者によるスナップショット*作成
- 17:00 終了

※「スナップショット」とはMOST内のKEEP Toolkitを利用して作成したコンテンツを指します

会場地図：京都大学 吉田南1号館 1共23教室（吉田南構内）



以上

研究ワーキンググループ(WG)2012年度活動報告

・2013年度活動計画(案)

研究ワーキンググループ(WG)は、2012年度、関西地区FD連絡協議会第5回総会(5月19日)において承認された今年度の活動方針に基づいて、二つのサブグループ(SG)を中心に活動を行った。その二つの研究SGは、「FDメディア研究SG」(主査校:大阪成蹊大学)、「FDデザイン研究SG」(主査校:神戸大学)である。研究WG、各研究SGの活動等については、関西地区FD連絡協議会の各WGの活動に関するホームページ(<http://www.kansai-fd.org/wg/>)に掲載されている。

1. FDメディア研究SG

FDメディア研究SGは、出欠確認研究SGから名称を改めて3年目を迎えた。2012年度も、4回の研究会を開催した。

1-1. 第1回会合(通算17回会合)

(a) 開催概要

- ・日 時: 2012年6月15日(金) 16時30分~18時30分
- ・場 所: 大阪成蹊大学 相川キャンパス 中央館5階537教室
- ・参加校・企業: 大学・短大15校、専門学校1校、高校1校、企業1社、合計21名

(b) 議 事

1. 奈良文化女子短期大学のFD~AP, CP, DP策定の経緯と今後~

発表者: 奈良文化女子短期大学 横尾祐郁

今回のご発表は、「メディア」というよりはディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシー(AP)に関する内容が中心であった。奈良文化女子短期大学でこれらをどのように策定したか、その経緯をお話いただいた。会合では以下の報告があった。

1.1 大学紹介

1.2 3つのポリシーの背景 中央教育審議会の答申より

1.3 求められる3つのポリシー 認証評価の観点から

1.4 本学ディプロマポリシー(DP)策定の経緯

1.5 本学カリキュラムポリシー(CP)策定、アドミッションポリシー(AP)改訂経緯

1.6 今後の課題

1.7 後質疑応答

発表後、熊本学園大学、大阪商業大学、京都大学から質問・提案等があった

2. 総括

京都大学高等教育研究開発推進センター長大塚雄作先生より総括を頂いた。

3. 新規会員等の自己紹介

新メンバーおよび会合に初めて参加した会員の自己紹介があった。

1-2. 第2回会合（通算 18 回会合）

(a) 開催概要

- ・ 日 時：2012 年 9 月 7 日（金） 16:30～18:30
- ・ 場 所：大阪成蹊大学 相川キャンパス 中央館 1 階特別会議室
- ・ 参加校・企業：大学・短大 11 校、専門学校 1 校、高校 1 校、企業 1 社、合計 17 名

(b) 議事

1. 京都光華女子大学の教育／学習支援システム

発表者：京都光華女子大学 阿部一晴

2. 大阪産業大学における授業アンケートの現状と課題

発表者：大阪産業大学 大野麻子

3. 京都文教大学での Saai-MAS の運用効果と課題

発表者：京都文教大学 垣鏝祐介

4. 意見交換

3 つの発表後パネルディスカッション形式で意見交換を行い、会場からの質問に、発表者 3 名から回答を頂いた。発表者が行っているポートフォリオに関する質問や授業アンケートの公開等に関する質問が積極的に出され、約 40 分間ディスカッションを行った。

1-3. 第3回会合（通算 19 回会合）

(a) 開催概要

- ・ 日 時：平成 24 年 12 月 14 日（金） 16 時 30 分～
- ・ 場 所：大阪成蹊大学 相川キャンパス 中央館 1 階特別会議室
- ・ 参加校・企業：大学・短大 12 校、専門学校 1 校、企業 3 社、合計 20 名

(b) 議事

1. 山口学園開発の学生アンケートシステムについて

概要説明とデモ、アンケート後の管理画面の説明および今後の課題

発表者：学校法人山口学園情報システム課 松井正通

2. 帝塚山大学における携帯電話での出欠確認の導入 1 年目で見えた課題等

テスト導入から本格導入に移行して、学内の課題と今後の展望

発表者：帝塚山大学事務局学生支援センター 中島剛

3. 関西国際大学における Saai-MAS のテスト導入の結果

発表者：関西国際大学教務課メディアサポート室 山田浩史

4. 意見交換

3 つの発表各々について意見交換が行われた。後パネルディスカッション形式で意見交換を行い、会場からの質問に、発表者 3 名から回答を頂いた。

1-4. 第4回会合（通算 20 回会合）

(a) 開催概要

- ・ 日 時：平成 25 年 2 月 20 日（水） 16 時 30 分～18 時 30 分
- ・ 場 所：大阪成蹊大学 相川キャンパス 1 階特別会議室
- ・ 参 加：大学 4 校、高校 2 校、企業 1 社、合計 11 名

(b) 議事

1. 双方向教育活用メディアに関する考察

発表者：大阪成蹊大学 柴沼 真准教授

柴沼先生は教育学を専門とされており、その観点から

- ・ 大阪成蹊大学 現代経営情報学部・マネジメント学部での双方向教育の試み
- ・ 双方向教育メディアの活用について
クリッカー、ポートフォリオ
- ・ なぜ双方向の教育は効果的か？
- ・ 具体的実践例
- ・ モバイル端末など新しいメディアを使った方法の模索
- ・ LINE を使ったポートフォリオ化

などについて考察いただいた。

2. 意見交換

参加者 11 名から質問やこれまでの実経験等が提示された。発表 1 時間、意見交換 1 時間、当初の予定を超えて活発な意見交換がなされた。

1-5. 「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」見学会

前期 2 回、後期 2 回の「携帯電話での授業アンケート、出欠確認」見学会を行った。

1. 前期 6 月 11 日（月）12 時 50 分～14 時 30 分

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス 301 教室および福永研究室

参加：6 校、8 名

予定では 1 時間であった見学会を 1 時間延長して、福永研究室でさらに詳細な説明をした。

2. 前期 6 月 15 日（金）15 時 30 分～16 時 30 分

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス 537 教室

参加：10 校、1 企業、15 名

3. 後期 11 月 14 日（水）12 時 50 分～14 時 40 分

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス 549 教室および福永研究室

参加：2 校、1 企業、4 名

予定では 1 時間であった見学会を 50 分延長して、福永研究室でさらに詳細な説明をした。

4. 後期 11 月 20 日（火）11 時 50 分～12 時 50 分

場所：大阪成蹊大学相川キャンパス 525 教室

参加：1 大学、1 高校、3 名

4 日間で延べ 20 校、2 企業、合計 30 名の参加があった。見学会は 3 年間続けているがいまだ多くの学校からの参加があり、これら学校に対する見学会の貢献度は大きいと思われる。今後も見学会を継続的に続けていきたいと思う。

2. FD デザイン研究 SG

2-1. 第 1 回会合

研究 WG・FD デザイン研究サブグループ（以下 SG）は、2013 年 3 月 22 日（金）午後 1 時 20 分～3 時、神戸大学（鶴甲キャンパス）大学教育推進機構 N 棟 2 階・402 号室において、本年後の第 1 回会合を、本協議会共催の平成 25 年度神戸大学大学教育推進機構 FD 講演会として開催した。これは、関西 FD・研究 WG・FD デザイン研究 SG 主催の企画によるものである。神戸大学内からは 18 名、関西地区 FD 連絡協議会加盟校からは 17 名、合計 35 名の参加があった。



本講演会では、神戸大学大学教育推進機構川嶋太津夫教授に「大綱化以降の中教審答申と大学改革の軌跡：個人的メモワール」と題してお話しいただいた。本講演の内容は、川嶋先生が長きにわたり務めてきた中央教育審議会委員としての経験をベースに、いわゆる大学設置基準大綱化以降の大学改革の流れを、中央教育審議会答申と対照させながら、また神戸大学の改革の流れや川嶋氏自身のライフ・ヒストリーと対照させながら、簡潔にまとめたものであった。

講演中印象的であったのは、最後の質疑応答で、川嶋先生がある答申を示され「これはいつの太答申と思うか」と発問されたことでした。今日の答申であるといってもいい内容が書かれていましたが、実はそれは 15 年ほど前に出された答申の文言であり、それを受けて、日本の大学教育は変わったのか、変わらなかったのか、それはなぜか、ということについて建設的な質疑応答が行われた。また、中央教育審議会での生々しいやりとりの一部や裏舞台なども紹介され、答申がどのように作成されるのか、政策がどのように形成されるのかといった学術的な側

面からも興味深い内容であった。

3. 研究WGの2013年度の活動計画（案）

3-1. 研究WGの活動方針

- 昨年度実績に鑑み、本年度も引き続き、「FD メディア研究 SG」、「FD デザイン研究 SG」の二つの SG において、共同研究活動を推進する。研究 WG は、その活動に必要な支援を行う。
- 本研究 SG の活動内容は、関西 FD のホームページに掲載すると共に、公開研究会や大学教育研究フォーラム（京都大学）の場などを利用して、共有を図る。
- 本年度は、特に新規の SG を作ることはしないが、新規 SG の立ち上げ希望も含めて、総会終了後、早い時期に、研究 SG への参加募集案内を、関西 FD のメーリングリストを通じて行う。

3-2. 「FDメディア研究SG」の計画案

- SG 研究会を 4 回開催する。ケータイ等を利用した授業アンケート、出欠確認の見学会を 2 回 4 日間開催する。
- 研究会で新規活動テーマなどを検討する。

3-3. 「FDデザイン研究SG」の計画案

- SG研究会を2～3回程度開催する。また、大学教育研究フォーラムなどのラウンドテーブルなどで、研究成果の一端を報告する。
- FDの評価（授業評価を含む）や成果の検証やティーチング・ポートフォリオについてFDのデザインやコンセプトとあわせて検討し、その成果を来年3月に京都大学で開催される大学教育研究フォーラム等で報告できればと考えている。

3-4. 研究WGの予算案

- 会合開催費（資料代・お茶代）、および、講師謝金・旅費を必要とする。会議・研究会等10回程度の会議費（5,000円×6回＝30,000円）、外部講師招聘（旅費・謝金等＝100,000円）、Saai-MASシステム利用費（100,000円）、計230,000円。

III-2. FD 活動報告会 2013

2013年5月18日(土)、関西地区FD連絡協議会第6回総会において、会員校で組織的に取り組まれているFDや教育改善の活動についてポスター発表の形式で情報交換をおこなう「FD活動報告会2013」が開催された(写真1、資料1)。本報告会は、今年度で4度目の開催であった。初年度は幹事校を中心に17件、一昨年度は12件、昨年は17件の発表であったが、今年度は25の会員校から28件の発表があった。これまでと同様、約1時間にわたり報告会の開始から終了まで活発な意見交換がおこなわれた。

なお、今回から、会員校が3年に一度は発表をおこなうというローテーション制を導入したが、過去3年間で未発表の会員校を中心に発表を促したこともあり、この点については必ずしも十分に機能したとは言えず、今後の課題となった。

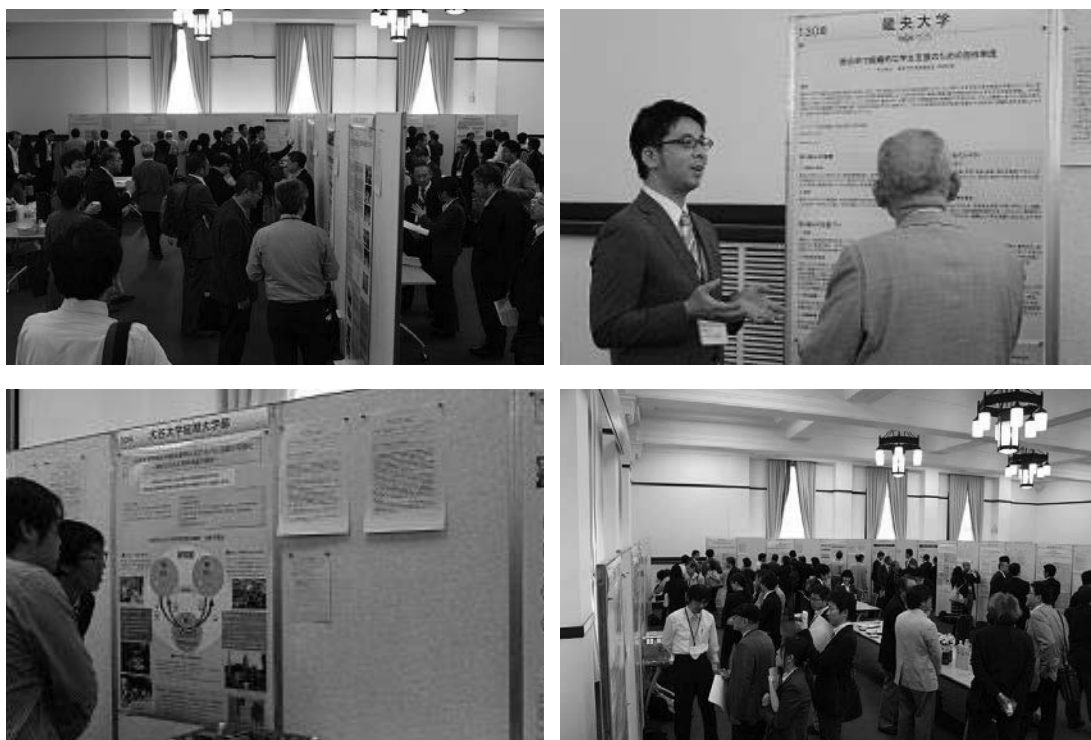


写真1 「FD活動報告会2013」の会場の様子

本報告会は、次のねらいが含まれている(図1、資料2)。まず、各会員校で取り組まれている組織的なFDや教育改善の活動の情報交換の場を本協議会の公的活動として位置づけることである。これをポスターセッションの形式で実施している。会員校の活動成果に関する定期的な共有の場を設けることで、発表校にとっては組織的取り組みをアピールするとともに、会員校から意見や助言を得る機会ともなる。また、総会の参加校にとっては、他の会員校の取り組みを担当者から直接説明を受け、そのノウハウを自身の組織の活動に活かす機会である。このように、FDに関する互助組織としての本協議会の特徴を反映させた活動といえる。

次に、各ポスター発表に対し、会員校がコメントを付けるピアレビューの実施である。ポス

ターの作成者には、あらかじめポスター上に「取り組みの視点」「コメントが欲しい点」を記述するよう依頼し、他者がポスターを読む際の視点を与える工夫をしている。このピアレビューには、ポスターの原稿を総会までに読んでもらい、事前にコメントを作成し提出してもらう「指定校用コメントシート」と、総会の参加者が報告会の場で自由にコメントを付ける「一般用コメントシート」を準備している。前者は、発表校につき2校の指定校にコメントを依頼し、総会に出席不可能である場合などを除き多くの会員校からの同意があった。今年度はすべての発表に対して会員校からのコメントが提出された。このようなコメントを会員校間で共有することで、FDに関して抱える課題や評価の視点を相互に強化することが可能と思われる。このピアレビューの実施は、本協議会の大きな特徴であり、他に例を見ない。

ポスターの原稿は、MOST を利用し、KEEP Toolkit を使ったスナップショットとしてオンライン上で作成することが推奨されている。従来と同様、多くの発表校がMOST を利用して原稿を作成し、これ以外の発表原稿と合わせて一覧にしたものを、協議会の成果としてウェブ上で対外的に発信した（図2）。下記のURL から各ポスターにアクセスできる。なお、ピアレビューのコメントについては、会員校の共有財産としてPDF ファイルおよび会員校の教職員のみがアクセスできるオンラインコミュニティ内で公開されている¹⁾。これを継続することで、会員校のFDの取り組みを網羅することを目標としている。また、これらを互いに関連づけたり分類して提示することで、同様の取り組みをおこなっている会員校同士をつなぎ合わせ大学間連携などに発展する可能性もあると考えている。さらに、協議会全体の成果としてウェブ上で発信することは、社会に対する説明責任を示すことにもなるだろう。

<https://most-keep.jp/keep25/toolkit/html/gallery.php?id=822562082505377>

このように、本報告会は多重の活動が盛り込まれ、その効果ができるだけ大きなものとなるよう意図されている。本報告会の取り組みは、会員校相互の貢献なくしては実現不可能であり、今後も本活動に対して協力をいただければ幸いである。

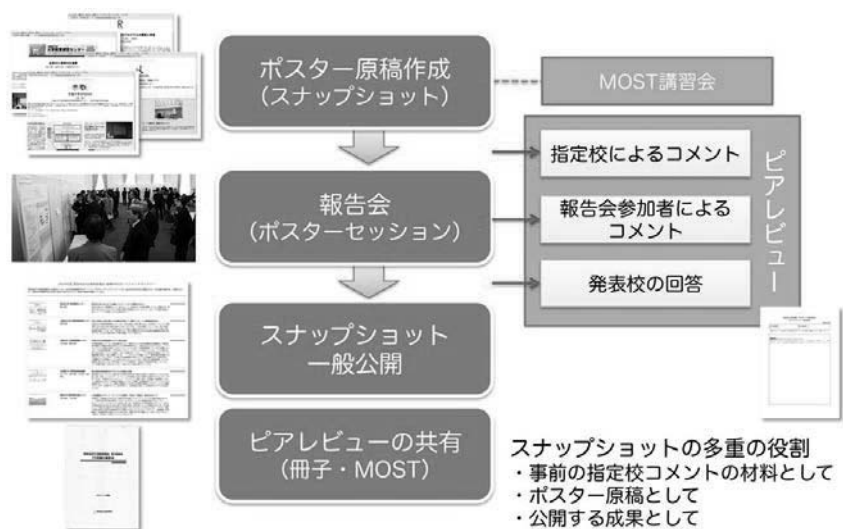


図1 「FD 活動報告会」のデザイン



図2 スナップショットギャラリー（左）とピアレビュー報告書（右）

総会時に回収したアンケートの結果から、「FD 活動報告会」に関する箇所を抜粋して、その結果を報告する。「ポスターセッションの満足度」について尋ねたが、有効回答数 29 件のうち、「5 非常に満足している」12 件、「4 まあまあ満足している」16 件、「3 どちらともいえない」1 件、「2 あまり満足していない」0 件、「1 全く満足していない」0 件と、5 件法の評定平均値が 4.38 と、過去最高値となった（2012 年度：4.29、2011 年度：4.32、2010 年度：4.26）。本取り組みがこれまで同様、参加者にとっても好評であったといえる。自由記述からは、「日々学生・教育で悩んでいる事を相談できて感謝申し上げます」「e ポートフォリオ、COC への取り組みなど大いに参考になりました」「他大学の FD 活動から本学の FD 活動のヒントを得た。とりくむ意欲があがった」「MOST システムは便利です」「本学が抱える課題について参考となるものもあり、大変有意義でした」「発表する側でしたが、他の大学の発表も見れ、参考になりました」といった感想が得られた。

次年度以降も「FD 活動報告会」は継続的に開催するが、アンケート結果を元に取り組み自体の改善もおこなうとともに、発表校数の増加やピアレビューのより一層の活性化に向けて検討をおこないたい。

注

- 1) ポスター原稿やピアレビューコメントの公開と共有は、広報WGの業務としておこなった。

(酒井 博之)

関西地区 FD 連絡協議会 第 6 回総会

日 時 : 2013 年 5 月 18 日 (土) 13:00～

場 所 : 京都大学百周年時計台記念館

プログラム

13:00 総会 (百周年記念ホール)

16:00 ポスターセッション「FD 活動報告会 2013」(国際交流ホール)

17:30 情報交換会 (山内ホール)

FD 活動報告会 2013 関連スケジュール

2012 年

12 月中旬 ニュースレター9 号発行（発表校の参加受付開始）

2013 年

2 月 22 日（金） 参加受付締切り（第一次：MOST 講習会参加希望者のみ）

3 月 1 日（金） MOST 講習会（於：京都大学）

2 月 20 日（金） 幹事校会議（ポスター発表校（経過）、ピアレビュー担当校の承認）

3 月 22 日（金） 参加受付締切り（最終）

4 月 26 日（金） 発表原稿提出締切り

5 月 7 日（月）～ ピアレビュー担当校に発表原稿、コメントシート記入要領を通知

5 月 18 日（土） 総会「FD 活動報告会 2013」

5 月 31 日（金） 発表者からの回答コメント締切り、原稿の修正期限

6 月中旬 MOST 上での共有化、関西 FD の HP からリンク

7 月初旬 コメント集（PDF ファイル）を会員校に配布

III-3. FD 共同実施ワーキンググループ

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修共同実施の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行っている。ワーキンググループの構成は、昨年度に引き続き、大阪大学(常任幹事校)、関西学院大学(幹事校)、京都大学(代表幹事校)を FD 共同実施部とするものである。

1. 活動目的

2013 年度 FD 共同実施ワーキンググループの活動目的は以下の 2 点である。ただし、今年度は下記の 2 については実施することができなかった。

1. 「初任教員向けプログラム」(通称：カンジュニ) を実施すること
2. 単独では FD 研修会の開催が困難な大学に対して、研修会開催に向けた様々な支援を行うこと。

2. 初任教員向けプログラムについて

「初任教員向けプログラム(通称：カンジュニ)は、関西 FD 加盟校で実施されている研修会のうち「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとするものであり、今年度で 3 年を終えた。関西 FD では、研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供している(図 1)。

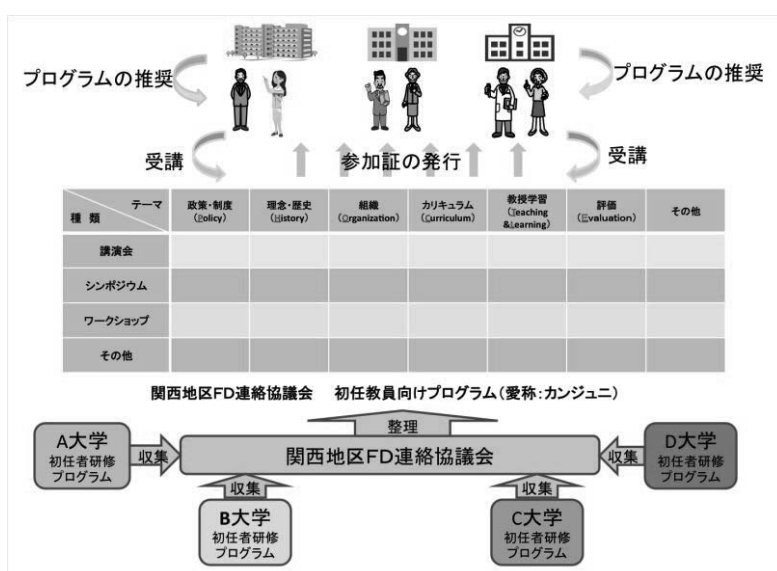


図 1. 初任教員向けプログラムの概略

3. 2013 年度の活動報告

3-1. 初任教員向けプログラムの実施

2013 年度の初任教員向けプログラムは 6 回であり、5 校が自校の研修会を公開した。参加者などの詳細は表 1 に示した通りである。

表 1 2013 年度 関西地区 FD 連絡協議会初任教員向けプログラム（カンジュニ）実施状況

	講座名	開催大学	開催日時	参加者数	参加者内訳		アンケート回答者(名)	無回答者(名)	備考
					会場校(名)	会場校以外(名)			
				合計(名)					
1	共通教育ワークショップ「対話授業とは何か」	大阪大学	2013.3.19	43	22	20	10	10	非加盟校参加者 1 名
2	「授業の基本」ワークショップ「授業の基本と授業づくり」	滋賀県立大学	2013.4.27	—	—	26	26	0	
3	大学生への作文法指導	滋賀県立大学	2013.6.28	46	20	26	18	8	加盟校外からの参加者 2 名含む
4	「授業の基本」ワークショップ「毎回の授業をつくる基本を学びたい方」	神戸薬科大学	2013.8.19	38	23	15	5	10	
5	授業の基本	大阪工業大学	2013.9.6	30	23	7	6	1	
6	大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」	関西学院大学	2013.9.9～10	37 二日間 延べ	14 二日間 延べ	8	6	2	9 日： 関学 22 名 加盟校 8 名 10 日： 関学 15 名 加盟校 6 名
	計			151	80	82	61	21	

以下は、関西地区 FD 連絡協議会ホームページに掲載されている各大学からの報告(抜粋)である。

(1) 2013 年 3 月 19 日 (火) 大阪大学

「対話授業とは何か」 関西 FD からの参加者：20 名

2013 年 3 月 19 日 (火) に、大阪大学(豊中キャンパス)ステューデント・コモンズ(総合棟 I) 2 階・セミナー室 I において、平成 25 年度大阪大学共通教育新任教員研修が開催された。

本研修は2部構成となっており、第Ⅰ部は大阪大学の共通教育科目を新たに担当する教員向けの研修会であった。関西地区FD連絡協議会の共催事業として、第Ⅱ部の平田オリザ教授(大阪大学コミュニケーションデザインセンター)が講師をされた「対話型授業とは何か」が公開され、大阪大学の新任教員等が22名、関西地区FD連絡協議会加盟校から20名、非加盟校から1名の合計43名の参加があった。

研修会は、劇作家・演出家である平田オリザ教授によってワークショップ形式で進められた。「コミュニケーションデザイン」という視点から、学生参加型・双方向型の授業を行う上で有用な視点を提示するという目的で行われた。まず、近年、学生に求められているコミュニケーション能力とは何かについて説明があった。そののち、実際の授業で活用できる簡単なゲーム、ロールプレイを全員が体験することで、教員と学生および学生間でのコミュニケーションをとる具体的な方法が示された。この体験により、学生の心情がどのように変わるか等の説明があった。その後、教育におけるコミュニケーション授業を導入する際に注意すべきことについての説明があった。質疑応答時間には多数質問がなされ、参加した各自が応用できる多様なヒントを得ることができる内容であった。



(写真およびデータ提供：大阪大学)

(2) 2013年4月27日(土) 滋賀県立大学

「授業の基本と授業づくり」ワークショップ 関西FDからの参加者：26名

滋賀県立大学で「授業の基本と授業づくり」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。研修会の構成は以下の通りである。

第1講 10:10～12:10 授業の基本①－基本の基本－

第2講 13:00～14:45 授業の基本②－授業展開上の罫－

第3講 15:00～17:45 授業づくりワークショップ

大学が実施した事後アンケートからは、「研修会で得たこと、参考になったこと」として、

- ・授業の導入と教材研究の積極的に工夫することで、楽しい授業に改善できることが実感できた。
- ・授業にはヤマ場を作り出す「構成力」と「発問力」、「板書力」が必要だとよくわかった。
- ・チョークの使い方、声の出し方など基本的な事もよくわかった。
- ・視線、巡回の方法等参考になった。
- ・授業の導入"つかみ"の重要性を改めて実感した。
- ・しっかりと教材研究をして、スムーズにわかりやすい授業を展開したい。
- ・構成によって引き込まれる授業になることが実感できた。
- ・受講する学生の事よりも、教えなければならない量ばかりに気をとられていたことに気付かされた。
- ・宿題も含めた授業計画を立てる事の大切さがわかった。

といった回答が見られた。

また、質問事項として、

- ・資料（レジюме）を配布すると学生が来なくなる（板書しなくなる）傾向があり、どのような資料を配布すれば効果的か。
- ・伝えたい内容が板書では間に合わない場合はどうすればよいか。
- ・授業の終わりに「質問」を尋ねても反応がない場合が多いが、どうすればよいか。
- ・わからなければ研究室に質問しに来るように言ってもこない。どうすれば気軽に来るようにできるか。
- ・授業で行う内容と授業外で学習する内容について、どのくらいの比率で量を配分するのが望ましいか。

といった内容が寄せられた。これらの質問に対しては、後日、講師から質問者に対して個別に回答があった。また、「今後の研修会に期待する内容」として、以下のものが挙げられている。

- ・ディスカッションの進め方について
- ・効果的な宿題の作り方、効率的な朱入れ方法について
- ・視覚教材（パワーポイントなど）を利用した授業方法について
- ・大人数における授業の作り方について
- ・適切なシラバスの書き方
- ・授業外学習への結び付け方について
- ・指導案の書き方について

（データ提供：滋賀県立大学）

(3) 2013年6月28日（金）滋賀県立大学

『大学生への作文法指導』 関西FDからの参加者：26名

滋賀県立大学で「大学生への作文法指導」研修会が開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生であり、開催時間は18:30～20:30であった。

研修会では、滋賀県立大学環境科学部環境生態学科で実際に行っている作文力向上のためのカリキュラムを紹介し、うまく文章の書けない学生に対して、「どういう指導をすべきか」という観点から、教育法のヒントが伝えられた。

大学が独自に実施したアンケート結果からは、「研修会で得たこと、参考になったこと」として、

- ・文節、段落、論理に意識を向けさせることが大切だとわかった。
- ・学生の文章のどこを見ればいいのか、どこを指導すればいいのかわかった。
- ・卒業論文指導に大変役立つと思った。
- ・科学的な日本語作文の指導をする上で、大変参考になった。
- ・中等教育の口語文法や国文法を使い、具体的に説明することで学生の理解につながっていくことが実感できた。

といった感想が挙げられた。また、「時代とともに少しずつ変化する言葉の在り方」や「エントリーシートにおける作文法指導」についての質問が寄せられた。さらに、「学生にとってわかりやすい添削指導」「ノートテーキングの訓練法」「学生からの評価をすくい上げる方法」などを、今後の研修会に期待したいという声があった。

（データ提供：滋賀県立大学）

(4) 2013年8月19日(月) 神戸薬科大学

「授業の基本」ワークショップ 関西FDからの参加者：15名

神戸薬科大学で「授業の基本」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。開催校が医療系の大学であることから薬学、看護学など医療系学部所属の教員の参加が多くあった。研修会の構成は以下の通りである。

第1講 10:00～12:00 授業の基本①ー基本の基本ー

第2講 13:00～15:00 授業の基本②ー授業展開上の罍ー

第3講 15:15～17:35 授業づくりワークショップ

大学が実施したアンケートには以下のような感想が寄せられた。

- ・板書、視線、巡回の方法等参考になった。
- ・授業案・構成の作り方が参考になった。
- ・これまで自分の経験に基づいて授業をしてきたが、再確認できて良かった。
- ・グループワークを通して、色々な先生方の考え方、取り組み方に触れることができて良かった。
- ・次回はパワーポイントを使用する場合の教授法について詳しく知りたい。

(データ提供：神戸薬科大学)

(5) 2013年9月6日(金) 大阪工業大学

「授業の基本」ワークショップ 関西FDからの参加者：7名

大阪工業大学で「授業の基本」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。第1講から第3講で構成され、第1・2講は「授業の基本」に関する講義、第3講は「教材研究のグループワーク」となっており、教授、准教授、講師、助教、研究員といった様々な立場の教員が皆一様に熱心に受講されていた。

第1・2講を経て、第3講では6グループに分かれて教材研究のグループワークを行い、最後に各グループで5分間のミニ授業を実施した。同じテーマでのミニ授業であったが、6グループとも個性のある授業が展開され、講師からはそれぞれのミニ授業に対して講評が行われた。参加者は明るい雰囲気の中で、ワークショップ全体を通じて、授業の準備・導入・展開の大切さやチョークの使い方・黒板の板書・話し方など、多くのものを得た様子であった。

研修会の構成は以下の通りである。

第1講 授業の基本①ー基本の基本ー

第2講 授業の基本②ー授業で陥りやすい罍ー

第3講 教材研究ワークショップーグループワークとミニッツレクチャー実技ー



チョークで板書するのが苦手だという参加者が多く、指導に熱心に取り組む姿



ミニ授業後の講師による講評の様子

(写真およびデータ提供：大阪工業大学)

(6) 2013年9月9日(月)～10日(火) 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

「大学教員のための『講義方法ブラッシュアップ』」 関西FDからの参加者：1日目8名、2日目6名)

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで倉茂好匡氏(滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長)を講師に迎え、「大学教員のための『講義方法ブラッシュアップ』」のワークショップが開催された。本ワークショップは、専任教員・非常勤講師及び大学で講義担当を目指す大学院生等を対象としたもので、1日目のみ、2日間連続参加の選択が可能で、発声、板書、立ち位置といった基本的なことから、授業構成、発問、教材研究といった内容について実習を交えて、「講義方法のブラッシュアップ」を行うことを目的としている。内容は以下の通りである。

9月9日(月)

講義「基本の基本」

講義「授業展開で陥りやすい罠」

ワークショップ「教材研究」

9月10日(火)

講義「発問法、アクティブラーニング法」

グループワーク「授業の完成」

授業発表会

なお、大学が実施したワークショップ終了後のアンケートにおいて、参考になったという主な意見は以下のとおりであった。

- ・教材の見せ方、資料の見せ方が勉強になりました。
- ・もっと早くこのレクチャーを受けておくべきだと思った。
- ・チョークの持ち方や立ち方など基本的なことから教えていただき、ヒントをいただきました。
- ・発問のポイントやアクティブラーニングのポイントが参考になった。
- ・学生に資料を読ませる工夫や課題の出し方が参考になった。また、グループワークを行うことで、ほかの大学の学生の様子や先生方から話を聞くことができてよかった。

(データ提供：関西学院大学)

3-2. 初任教員向けプログラムに対する参加者の評価

FD共同実施WGでは、初任教員向けプログラムに参加した、関西地区FD連絡協議会加盟校の教職員に対して、事後アンケートを実施している。それぞれの大学が独自に実施したアンケートと重複する部分はあるものの、特に初任教員向けプログラムという本制度そのものの意義や改善点を問うものとして重要であると考えている。本年度は、6回の研修会の参加者82名すべてにアンケートをメールで送付し、合計61名からの回答を得た。以下に、アンケートの回答を示す(欠損値あり)。

3-2-1. 参加者の職階

助教、講師といった若手に属する職階が多いが特に偏っているというわけではないことがわかる。なお、これらの参加者は、開催校の参加者を含まない人数であることを確認しておきたい。

教授	16名
准教授	13名
助教	10名
講師	25名（うち、テニユア1名）
助手	1名
研究員	1名
学振PD	1名
事務職員	3名

3-2-2. 参加者の立場

「あなたはどのような立場で本研修会に参加しましたか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。本制度は、新任教員向けとしているものの、昨年度と同様、新任教員に限らず、研修会に関心をもって参加した教員も多くいることが明らかとなった。

1. 新任教員として：32名（←13名）
2. 学内のFD担当委員として：11名（←4名）
3. 新任教員ではないが研修会に関心を持って：32名：（←13名）
4. 事務職員として：2名（←1名）
5. その他：1名

3-2-3. 研修会をどのようにして知ったか

「あなたはこの研修会のことをどのようにして知りましたか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。昨年度に学内向けポスターを作成、送付したため、学内のピラやポスターから知ったという教員がやや増えている。大幅に増えているのは、「その他の教職員から」である。他項目の自由記述などもあわせて推察すると、以前に参加した教職員から薦められたといった口コミでの参加が増えてきた可能性が示唆できる。

1. 学内のピラ・ポスターから：10名（←3名）
2. 関西FDのHPから：3名（←1名）
3. FD業務を担当する教職員から：11名（←19名）
4. その他の教職員から：31名（←2名）
5. 関西FDからのEメールによる案内で：9名（←7名）
6. その他（講師に直接薦められて、等）：4名

3-2-4. 参加のきっかけ

「あなたがこの研修会に参加したきっかけは何ですか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。「大学から参加の指示があったから」という理由は、本制度が学内のFD活動の一環として利用されてきたことを推察させるものである。一方で、こうした外発的なものではなく、「自分の教育能力を高めたかったから」「研修会の内容そのものに興味をもったから」といった内発的な理由による参加も多い。

1. 大学から参加するよう指示があったから：14名（←3名）
2. FD担当委員の業務として参加する必要があるから：7名（←2名）
3. 自分の教育能力を高めたかったから：50名（←24名）
4. 大学教育を考える機会が欲しかったから：20名（←11名）
5. 実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから：34名（←12名）
6. 研修会の内容そのものに興味をもったから：41名（←15名）
7. 他大学の研修会に参加してみたかったから：8名（←5名）
8. その他（同じ講師の別な研修を受けた人からよかったとの話があったから）：1名

3-2-5. 制度についての評価

「今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください。」という設問に対しては以下のような記述が寄せられた。制度を評価し、継続や広がりを目指す声が多く見られた。

記述内容	回答者 所属	職階	回答者の 教育歴 (年)
非常にありがたいです。もっと活用していこうと検討しております。本学はFD活動があまりできておらず、自前はなかなか厳しいので、まずは他大学様のお力をお借りし、ゆくゆくは本学も何かしらご提供できるようになれば、と思います。	私立 大学	事務職 員	-
非常に良い制度だと思います。他大学の素晴らしい取り組みについて、学会などのご発表だけでなく、研修という機会を設けていただけたこと感謝しております。また機会があれば参加をしたいと思います。	私立 大学	事務職 員	-
非常に有意義だと思います。もっとこのような機会をつくっていただければと思っています。	私立 大学	事務職 員	-
自由にこのような研修会に参加できることは非常にありがたい。ぜひ、続けてほしいと思います。	国立 大学	研究員	-
今回はじめて参加させていただいたが、とても有意義であった。今回はたまたま情報が得られたが、研究員には情報が入らないのでしょうか。非常勤講師を担当している人もいますので、こういった研修の紹介があってもよいのではないかと思います。	国立 大学	研究員	0
他大学での先生からの日頃の講義で気になっている点について話を聞く中で、各大学や学部により、求められる教育内容がかなり異なっていることを改めて感じることができ。良い機会になったと思う。	国立 大学	学振P D	0
開かれた研修会というイメージがあります。他大学で実施されていることはなかなか個人で知ることは難しく、単なるうわさ話で終わってしまうことが多々あります。しかし、このように他大学の研修会を制度化されたものとして徴候することは、よい実行内容を正しく共有でき、また学ぶことができるという意味で大変有意義であると思います。	私立 大学	助教	0
今後ともぜひ続けて頂きたいです。	私立 大学	助教	0

自分の大学の中だけでなく、他大学の現状を知れたり、先生方と接して情報交換ができるので、とても良い制度だと思う。	私立 短期 大学	講師	0
他大学の施設を見たり、教職員の方と交流して、知見を広げることができ、良いと思う。	私立 大学	教授	0.1
素晴らしい制度だと思います。是非、他の研修会にも参加したいと思います。	国立 大学	講師	0.5
大変素晴らしいと思います。私は FD 委員でもありますが、まだ教育歴が浅いので、他大学での初任者研修としてどのような事が行なわれているのかという事よりも、関西圏内の大学でこういった初任者研修が行われ、無料で利用できる環境にあるという事が大変ありがたいです。また日程が合えば参加したいと思います。	私立 大学	講師	0.5
もっと、いろんな内容で実施してもらえるとうれしいです。	国立 大学	講師	1
機会があれば受けたいと思っています。 (2日間連続の研修があるとお聞きしましたので)	私立 大学	助教	1
他校の事情等も知る機会が出来るので、大変良いことだと思いました。	私立 大学	講師	1
大変ありがたいです。	私立 大学	助教	1
非常に、ありがたいことだと思います。今後も、ぜひ、続けていって欲しいと思います。	私立 大学	講師	1
自分の所属する大学では、女子学生に限られるため、他大学での研修を受講し、いろいろ比較しながら考える機会を得られることは大変有意義である。	私立 大学	教授	1.5
内容が良かったのでありがたいですが、電車はともかく路線バスの時刻について調べるのが手間取ったので、できれば案内していただきたい。	私立 大学	講師	2
普段とは違った視点や環境で自分自身を見直すことができるので、とても、良い制度であると思います。	私立 大学	教授	2
ホームページを細目にチェックしたいと思います。	私立 大学	助手	3
今回のように、いくつかの大学から新採用教員を集めて FD を行うこと自体は、個別の大学で行うよりも、コストを抑えることができる点で合理的か。一方で、大学内で他学部・学科の教員とのコミュニケーション不足ほどの大学でもよく聞く話なので、各大学で、若手教員が集まって、授業について交流する場を組織し、それをきっかけに学内のコミュニケーションを活性化し、より良い大学を模索することも有効なのではないかと考えた。	私立 大学	講師(テ ニユア)	3
情報交換の場として有益だと思う。	私立 大学	講師	3
大変感謝しております。	私立 大学	助教	3

とても良いと思います。他の大学の人が講義で体験していることもわかるし今後の参考になります。	国立 大学	助教	4
今回のように広域的に行い、複数の大学の協同開催をすることで研修を受ける機会が広がるのでとてもいい制度だと思います。	私立 大学	助教	4
自分の所属する学校とは違った取り組みがあることを知る機会になりよいと思う。	私立 大学	助教	4
ぜひとも、この制度を続けていただきたい。	私立 大学	講師	5
様々な大学での研修に参加し、研修はもちろんですが、意見交換等もしていきたいと考えております。	短期 大学	講師	5
開催大学のご負担になるかと思いますが、大学により FD 活動の活発さにかなり差がある現状では、FD 活動が低調な大学に属する者として大変ありがたく思います。他大学の研修会に参加させていただくことを通じて、FD 活動への理解者を増やし、教育の質の向上と自校での FD 活動の活発化につながればよいと考えております。	私立 大学	教授	6
今後も開催してほしい。	私立 大学	講師	6
なかなか自校単独ではできない現状がありますので、このような制度があると気軽に参加させていただけるので大変有難いです。	私立 大学	講師	7
よいシステムだとも思います。	私立 大学	准教授	7
今回の研修のように、学外研修会があれば積極的に参加したい。	私立 大学	講師	7
学内でもさまざまな取り組みが行われておりますが、企画側の限界(?)もあり、繰り返しやマンネリの感も見受けられます。他大学の研修会への参加は、情報交換や交流の意味もあって、とても良いと思います。専門領域の世界という狭い範囲での発想に固まらず、他の立場の考え方や理解の仕方など、学ぶべき事はおおいにあると思います。さらに、自分自身の好奇心も刺激されます。今後も、この制度をますます活発にさせていただけたらと考えております。	私立 短期 大学	講師	7
次回もぜひ参加したいです。夜だったせいもあると思いますが、参加者が少なかったのがもったいないと思います。	私立 大学	講師	8
ノウハウを自校のみで囲い込むのではなく、ほかの大学にも開放して下さるのはとても素晴らしいことだと思いますし、僕個人としてもありがたいです。	私立 大学	准教授	8
様々な大学の教育内容がわかり、よいと思います。	私立 大学	講師	8
初めて他校の研修会に参加させていただきましたので、全てが目新しく、実施校と本校との違いや本校の特色を改めて考える機会になりました。ありがとうございました。このような研修会が多くあれば、大学教育全体の底上げに繋がると思いました。	国立 大学	准教授	10

学内だけでは研修にどのような問題点を取り上げるかという選択の幅に限界があり、また、研修を受ける機会の数も限られてしまうので、他大学の研修を受講させていただけるのは大変ありがたいです。	私立 大学	准教授	10
他大学のキャンパスに行き、話を聞くということは、マンネリ打破に良いことだと思います。	私立 大学	准教授	10
とても良いと思います。また参加させていただきたいと思います。	私立 大学	講師	11
他大学の研修会を受講できる機会は大変ありがたく、有意義でした。日程があれば、今後も積極的に参加させていただきたく希望しております。	私立 大学	講師	12
自身の大学での研修は年に2回程度で、内容も限られるため、他大学の研修を受講できるのは、とても良いシステムだと思います。	私立 大学	教授	13
有意義な制度であり、今後も活用したい。	私立 大学	教授	14
いろんなテーマでこれからも続けて欲しいです。	私立 大学	講師	15
よいことだと思います。	私立 大学	教授	17
今後とも、この制度を続けてくださいますよう、お願いいたします。	私立 大学	教授	17
このような機会をいただき、制度を作られた方、準備された方皆様に感謝しております。今後も引き続き開催していただけたらと思います。	私立 大学	准教授	18
教員である私は、とても担当科目が多く、通常の期間の研修会は参加できません。今回のようなタイミングで行っていただけると参加しやすかったです。	私立 大学	准教授	18
とてもよいと思います。	私立 大学	准教授	19
たいへんいい試みだと思う。	私立 大学	教授	28
よい取り組みだと思いました。	私立 大学	講師	31
なかなか他大学の研修会に参加する機会がないので、どの学部・学科でも共通して研修できる内容であれば、このような制度があることは大変よい機会になる。お世話される大学は大変であろうが、とてもありがたい制度である。	私立 大学	准教授	32
兵庫県から参加しましたが、少し遠かったのですが、もう少し近くでしていただく機会があればありがたいです。	私立 大学	教授	35
たいへんありがたいことです。ぜひこういう機会を増やしていただきたい。	私立 大学	教授	36
近隣の大学で、気楽に相談できる機会があればいいと思います。	私立 大学	講師	37

大変興味深く、よいシステムであると考えている。	私立 大学	講師	38
大変良かった。時間と場所の設定が難しいと思われるが、せっかく集まっても2時間弱で、もっとゆっくり話し合いとかできたらと、もったいなかった。	私立 大学	准教授	42

4. さいごに

3年を終えて、参加者が増えてきていることが特徴である。また、研修会の内容への評価が高く、アンケートには感謝の言葉が綴られている。当然ながらその評価は、自校の研修を公開している大学あるいは講師の先生へ向けられたものである。研修を公開するメリットを共同実施WGでは「研修会への参加者の増加と多様性の確保」「自校の取り組みのPR」「研修会の検討や開催支援による、自校の研修プログラムの改善」としているが、それを支えているのは、研修講師の先生の「より多くの先生たちの役に立ちたい」という思いであろう。広報のあり方や提供する大学の多様性の確保など、まだまだ課題は多い。利用する側、提供する側双方にとってよりよい制度であるために、WGで何ができるのか、幹事校を中心にさらに検討していく必要がある。

(田口 真奈)

III-4. FD 連携企画ワーキンググループ

1. 組織体制と活動内容

1-1. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ (WG) は、2013 年 12 月現在、以下の大学で構成されている (敬称略)。

◆ FD 連携企画部

- ・立命館大学 (安岡高志)・・・責任校
- ・関西大学 (田中俊也)
- ・神戸常盤大学 (松田光信) * 関西 FD パイロット校
- ・京都大学 (松下佳代)・・・事務局

◆ FD 連携企画 WG

上記の FD 連携企画部、および以下の 3 校を含む計 7 校

- ・藍野大学医療保健学部理学療法学科 (平山朋子) * 関西 FD パイロット校
- ・大阪府立大学 (新井隆景) * 関西 FD パイロット校
- ・京都精華大学 (高橋伸一)

1-2. 活動内容

(a) 目的と特色

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ (問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など) を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントを実施するのではなく、継続的に情報交換しながら、実質的な教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティを形成することをめざしている。

FD 連携企画 WG には、ニーズの高いテーマに関連して自校の FD に取り組む会員校を「関西 FD パイロット校」として支援するという特色がある。2013 年 12 月現在、神戸常盤大学、藍野大学、大阪府立大学の 3 校が関西 FD パイロット校となっている。

(b) 活動計画

FD 連携企画 WG では、以下のようなプロセスで活動を展開している。

- ①特定のテーマについてシンポジウムを開催する。
- ②シンポジウム参加校・参加者を中心にグループを形成する。
- ③先進校の取組事例の学習や自校での試行を WG が支援する。
- ④関西 FD のホームページ・ニュースレターや大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う。
- ⑤毎年、①～④を繰り返しながら、連携を拡大・進化させる。

2. 2013年度の活動報告

2-1. 活動の経緯

本WGでは、2008年度より2011年度まで毎年1回計4回にわたり、「思考し表現する学生を育てる」というテーマでシンポジウムやワークショップを開催してきた。関西FDには多様な大学が参加しており、また、一つの大学にあっても多様な学部等が含まれている。したがって、FDの具体的な課題はそれぞれで異なってくることも少なくない。そこで設立以来、大学や専門分野の違いをこえて連携できるテーマとして選ばれたのが、このテーマであった。

2012年度は、その中で紹介された実践例およびそこから得られた知見をまとめて、関西地区FD連絡協議会・高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』を刊行した（ミネルヴァ書房、2013年3月、A5・272ページ、定価2,800円）。多くの方に読まれ、初版がもうすぐ売り切れるとの連絡を出版社から受けている。

本年は、12月14日（土）に、関西大学・津田塾大学共同主催、関西地区FD連絡協議会共催で、「思考し表現する学生を育てるV-レポート・ライティングに関する授業設計を考える一」を、関西大学千里キャンパスにて開催した。このワークショップは、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」（関西大学・津田塾大学）の一環に位置づくものである。本センターからは、本WG事務局の松下、および田中一孝助教が参加した。以下に、関西地区FD連絡協議会ニュースレター掲載予定の報告（田中助教執筆）を転載する。

2-2. 第5回ワークショップの報告

関西地区FD連絡協議会ワークショップ

「思考し表現する学生を育てるV-レポート・ライティングに関する授業設計を考える」

FD連携企画ワーキンググループ（WG）では、2013年12月14日に関西大学にてワークショップ「思考し表現する学生を育てるV-レポート・ライティングに関する授業設計を考える」を開催いたしました。「思考し表現する学生を育てる」は本WGが2008年度から継続的に開催してきたワークショップの第5回にあたり、今回はシラバスの作成や他部局との連携を含めたレポート・ライティングの授業設計をテーマに据えています。

■第1部 講演

本ワークショップは「講演」と「ラウンドテーブル」の2部構成で行われました。はじめに中澤務氏（関西大学）の司会のもと、田中俊也氏（関西大学）より開会の挨拶と趣旨説明がありました。また講演に先立ち、中澤氏と大原悦子氏（津田塾大学）より、ワークショップ開催の経緯についての説明がありました。主催機関である関西大学と津田塾大学は、「文部科学省大学間連携共同教育推進事業」のもと、「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」プログラムを共同で実施しており、本ワークショップはそのプログラムの一環として位置づけられます。

《基調講演「レポート・ライティングの授業デザインを考える」》

杉谷祐美子氏（青山学院大学）の基調講演では、近年の大学生の実態を踏まえたレポート・ライティング授業の実践事例が紹介され、授業デザインをする際のポイントが指摘されました。

近年の大学生の傾向として、授業外学習の少なさ、興味関心のある授業への積極性の高さ、負荷の高い授業の忌避、教員・大学・保護者などへの依存傾向が指摘できます。したがってレポート・ライティングの授業を行う際には、こうした大学生の実態に配慮した上で、学生のどのような能力を伸ばすのかという目標を定め、様々なサポート体制を用意しながら、授業デザインをする必要があります。

杉谷氏の授業は、身近で具体的な教育問題を素材にし、①問題を多面的に考察する思考力、②「読む、書く、聴く、話す」といった学習スキル、③大学での学びの姿勢、という三つを学生が身に付けることを目標に掲げています。なかでも杉谷氏は、②の学習スキルのみならず、問いを明確にした上で探求することや、自分の考えを相対化し他者を説得する能力の必要性を強調しました。そしてそれを身につけるためには、学生自身がレポートや論文の問題設定を行うことが重要である一方、その際の難しさを指摘しました。

実際の授業計画やその変遷についての紹介では、学生が書く論文の「序文」について、ルーブリックに基づいた評価の実践研究が示されました。杉谷氏によれば、学生が問題を立てる力は比較的短期間に上昇する一方、そうした問題の重要性・意義を他者に説明する力は伸びづらく、また資料・文献利用法は指導によって改善しやすい項目でした。そこで資料読解の授業をセメスターの早い時期に導入し、批判的読解をもとに問題設定ができるよう、授業計画を年々改善していったそうです。また書き方を教える以前の早い段階で、ひとまず学生が文章作成を行い、初期状態を確認することも重要とのことでした。

次に、学生のライティングにおける躓きのポイント、各種支援についてのニーズと問題が紹介されました。最も深刻な問題は、何をどう書いたらわからない、何を助けて欲しいかもわからない、という受身な状態で、学生が支援を求めるということでした。そうした学生に対しては、教えるというよりはまずは1回書かせて失敗させることが重要であると、指摘されました。最後に、カリキュラム作成やリソース利用など、授業をデザインする際に考慮すべき多くのポイントを、聴講者が参考にしやすい形で簡潔に示されました。

《現状報告「初年次教育の経験—読んだ、書いた、わかった?」》

大島美穂氏（津田塾大学）の現状報告では、氏が担当してきた初年次教育の授業やゼミにおける様々な工夫やこれからの課題について紹介がありました。

大島氏の授業は学生同士の刺激が起きるような仕掛けを設けているそうです。たとえば、学生は毎授業リアクションペーパーを提出しており、教員が学生の意見や質問を取り上げます。また、全員が意見を交え討論する機会も設けております。資料や作成した文書については、学習管理システム「マイ・ライティング・ポッド」によって公開・共有が可能であり、学生はランディングセンターによる文章作成の支援も受けることができます。

大島氏は、関西大学との国際政治の合同ゼミを通じて、津田塾大学の学生の長所と短所が顕わになったという事例も紹介しました。そして、各大学特有の学生の特徴を把握し、育成すべき能力を定めた上で、授業を設計する重要性を指摘しました。

二人の登壇者に対する質疑応答では学生の出席率や、レポート課題の字数、教員のエフォートと学生の成果の相関、評価法など実践に関わるトピックについて、具体的な意見が交わされました。

■第2部 ラウンドテーブル

第2部のラウンドテーブルでは小林至道氏（関西大学）のファシリテーションのもと、「教員・職員・学生スタッフが連携した授業デザインを考える」をテーマにグループ・ディスカッションとその内容の発表が行われました。

グループ・ディスカッションでは、参加者が4～6人程度の9つのグループに分かれ、主催者より配布された授業計画資料をもとに、教員・職員・学生の連携のあり方を検討しました。資料では、初年次向けの後期15回の授業「ライティングスキル入門」が設定されており、①大学以降、どのような文章を書く機会があるのかを知ること、②様々な形式の文章に対応できる基本的な書き方を身につけることを目標に、各回の授業内容が記されていました。

グループ議論の発表においては、非常に多くの意見が提出されました。まず、文献の探し方・読み方を教える際には、図書館司書によるレクチャーなどの連携可能性について意見がありました。また、アカデミック・ライティングのマナーを身につけるためには学習支援の教員のサポートも必要であること、メールやエントリーシートの書き方を指導する回では、キャリア・サポート・センターとの連携なども指摘されました。また、授業外学習の機会として、外国人講師の講演などを聞く機会を設けることも有効という意見がありました。

授業計画そのものを作り替えるべきという意見も提出されました。たとえば、基礎的なライティングの授業は後期よりも前期に開講した方が良く、就職など卒業以降のことを1年次より考えさせることは適切か、（授業計画における24人の受講人数に対して）より少人数の授業を導入すべきである、などです。また参加者が実践している事例の報告もありました。ある大学では言わばプロジェクト型のライティング授業を実施し、学生が特定のテーマについてインタビューを行いながら記事を作成し、最終的に報告書の冊子を印刷するという取り組みを行っているそうです。

参加者の発表後、講師である杉谷氏からは、各部局との連携についてのアドバイスや、一つの授業計画がどの大学でも通用するとは限らないため、色々なやり方があって良いというコメントがありました。そして最終的に何を目標とするかが重要であり、この目標にもとづいて授業計画を立てていく必要性を強調されました。

質疑応答では、発表について、就職という大学卒業後の出口が決まっている以上、むしろ初年次からエントリーシートの書き方を学んでも良いのではないかと、という意見がありました。ただし、1年の後期であれば授業計画に盛り込むことは可能だが、就職対策的な内容を盛り込むためには、15回の授業では難しいという点も指摘されました。

最後には三浦真琴氏（関西大学）より閉会の挨拶があり、次のような意見がありました。大学における学びとキャリアのつながりがわかっていくなっている状況で、アカデミック・ライティングの授業が果たすべき役割を今一度確認する必要があること。さらに、学生にレポート以外のことを書かせ、まずは文章作成を簡単に感じてもらうことが大事である、ということです。

以上、ワークショップでは講演者と参加者たちの多くの実践を踏まえ、多様な意見交換や問題の共有が行われました。こうした点は、今後の本WGの活動に積極的に活かし、イベントなどを企画していきたいと考えています。



III-5. 広報ワーキンググループ

1. はじめに

広報ワーキンググループ（WG）は、協議会に関する広報業務を担当している。広報部は以下のメンバーで構成されており、2013年1月現在、広報部と広報WGのメンバーは一致している。2013年度に和歌山大学および京都大学のメンバーに交替があった。

広報部・広報WG（敬称略）

大久保敦（大阪市立大学：責任校）

藤永 博（和歌山大学）（4月～）

酒井博之、田中一孝（4月～）（京都大学：連絡担当）

2. 活動報告

2013年度の広報WGにおける活動報告を以下におこなう。今年度の具体的な活動として、ニュースレター10号・11号の発行、ホームページおよびメーリングリストの維持・管理、「FD活動報告会」に関する広報関連業務をおこなった。

2-1. ニュースレターの発行

本年度のニュースレターは、第10号（9月、編集責任者：大久保敦）と第11号（1月、編集責任者：大久保敦）の2号を発行した（図1）（ただし、本稿執筆時点で第11号は未発行）。昨年度までは、冊子媒体で900部印刷し全会員校宛に送付していたが、予算の縮小により、今年度からPDFファイルのみの作成となった。ニュースレターのPDF版へのリンクを会員校に案内するとともに、本協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

本ニュースレターでは、協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各WGからのお知らせのほか、会員校間のFD活動について情報共有を促進するため、個別の会員校におけるFDの取り組み紹介を充実させてきた。第10号（タイトル：「節目を迎えた関西FD」）では、第6回総会、FD連携企画WGによる「ライティング指導のヒント」の刊行報告に加え、流通科学大学、大阪体育大学、大阪河崎リハビリテーション大学、大阪大学、滋賀県立大学より活動報告がなされた。また、総会と同日に開催された「FD活動報告会2013」に関する報告もなされた。第11号では、FD連携企画WGによるワークショップ「レポートライティングに関する授業設計を考える一思考し表現する学生を育てる」（12月14日開催）の実施報告に加え、京都薬科大学、大阪キリスト教短期大学からの活動報告が掲載されることが決定している。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなった（図2）。また、昨年度作成した、本協議会の会員校に所属する個々の教職員を対象としたメーリングリスト（「会員校教職員メーリングリスト」）の運用も引き続き実施した。

表1に示すように、本サイトは月平均2,264件（2012年11月～2013年10月）。ユニークユー

ザー数では490件/月)のアクセスがあった。このほか、幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを適宜作成、更新、管理した。



図1 関西地区FD連絡協議会ニュースレター 第10号
(※本稿執筆時点で第11号は未発行)



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

表1 ウェブサイトのアクセス数 (4～11月)

月	トータルアクセス数	ユニークアクセス数
11	1,681	352
12	1,667	399
1	1,730	414
2	1,685	344
3	2,391	445
4	3,619	460
5	3,087	537
6	2,330	498
7	2,857	641
8	1,688	488
9	2,693	746
10	1,740	554
平均	2,264	490

2-3. 「FD 活動報告会」関連業務

2013年5月の総会で開催した「FD 活動報告会 2013」(III-2 参照)に関する広報業務をおこなった。「FD 活動報告会 2013」報告書として、会員校間ピアレビューをPDFファイル化し、全会員校に通知した。なお、本報告書は、ピアレビューにおける会員校教職員間のコメントのやり取りを含むため、慎重を期して会員校の教職員のみ閲覧可能としている。また、25校28件の発表原稿一覧を、本協議会ウェブサイト上で一般に公開した。

2-4. MOST 講習会の共催について

2013年度総会において予定されている「FD 活動報告会 2014」におけるポスターセッションの発表原稿の作成と会員校間での蓄積、共有をおこなうため、京都大学で構築したオンラインFD支援システム「MOST」(<https://most-keep.jp>)内で原稿を作成することが推奨されている。MOST利用のための講習会開催を2014年3月に予定しており、これを過年度同様、本WGと共催で実施する(本稿作成時点で未実施)。

3. 次年度の計画について

最後に、広報WG次年度の活動計画について述べる。まず、本協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、ニュースレターの発行を引き続きおこなう。ニュースレターについては、引き続き、本協議会による活動報告のほか、会員校で実施されているFDの取り組み紹介による情報共有の充実を図る。さらに、本協議会で「FD 活動報告会 2014」を次年度総会において開催するが、会員校間のピアレビュー活動を電子媒体(PDF)で蓄積・共有するための支援をおこなう。電子媒体は会員校に限定して案内予定である。翌年度の報告会のための講習会も共催する予定である。

(酒井 博之、田中 一孝)

III-6. 研究ワーキンググループ

研究ワーキンググループ(WG)は、2013年度、関西地区FD連絡協議会第6回総会(5月18日)において承認された活動方針に基づいて、「FDメディア研究SG」(主査校:大阪成蹊大学)、「FDデザイン研究SG」(主査校:神戸大学)の二つのサブグループを中心に活動を行った。なお、研究WG、各研究SGの活動等については、関西地区FD連絡協議会の各WGの活動に関するホームページ(<http://www.kansai-fd.org/wg/>)に掲載されている。

1. FDメディア研究SG

FDメディア研究SGは、出欠確認研究SGから名称を改めて4年目を迎えた。2012年12月13日大阪成蹊大学にて開催された通算21回目の会合では、倉茂好匡氏(滋賀県立大学)による「滋賀県立大学環境科学部環境フィールドワーク科目でのモバイルアンケート導入について―導入成功の道筋と、その後の展開」、青森共同計算センターによる「モバイル端末による出欠確認、アンケート、新機能」の発表があり、活発な質疑応答が行われました。また、今年度も出席登録画面から連続して授業評価アンケート入力画面を表示する、他に例がない機能であり試みである「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会が、大阪成蹊大学で前期2回(2013年6月7日に2回)・後期3回(2013年11月5日、11月6日、12月13日)開催された。

2. FDデザイン研究SG

FDデザイン研究SGは、今年度、神戸大学大学教育推進機構主催で、FD講演会を3回(2013年9月19日、2014年2月3日、2014年3月17日(開催予定))した。以下に、各講演会の詳細を挙げる。

講演会1

- ・日時:2013年9月19日(木) 10:40~12:10
- ・場所:神戸大学大学教育推進機構 N棟402号室
- ・主催者:神戸大学大学教育推進機構
- ・タイトル:「学生の学習支援について-教育学の知見を基盤とした学際的なアプローチ-」
- ・講師:山内祐平(東京大学大学院情報学環准教授)
- ・内容:

神戸大学では、アクティブ・ラーニングやラーニング・コモンズなど授業外学習の支援を年次計画に掲げて、全学的にそれを推進しようとしている。本講演では、このような取り組みの一環として、東京大学駒場キャンパスの実践などを含めて、「反転授業」などに早くから着目し行われてきた意欲的な実践・研究について話していただいた。

【研修マトリックス】

〔種類〕 講演会

〔テーマ〕 教授学習

講演会 2

- ・日時：2014年2月3日15:10～16:40
- ・場所：神戸大学大学教育推進機構 C棟401号室
- ・タイトル：「高等教育進化論：グローバル化・オープン化・フラット化の時代に大学・教員・学生はどう変わるのか」
- ・講師：飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- ・内容：
テクノロジーの進歩、労働市場のグローバル化などによって、大学の研究面だけでなく教育面でも急速にグローバル化が進行している。MOOCなどテクノロジー面での進歩が大学教育にどのようなインパクトをもたらし、教員や学生がどのように変わるのかを、話していただいた。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：教授学習 (TL)

講演会 3（開催予定）

- ・日時：2014年3月17日15:10～16:40
- ・講師：米川英樹（日本学生支援機構理事）
- ・場所：神戸大学大学教育推進機構 C棟401号室
- ・タイトル：「グローバル人材育成とJASSO」
- ・内容：
グローバル化の進む中、日本人学生の海外留学を促進しようという動きが各大学に見られる。この中で重要な役割を果たすのが JASSO である。JASSO は、奨学金貸付事業がとかくクローズアップされがちであったが、国際交流の促進においてもきわめて重要な役割を担っている。JASSO の国際交流担当理事である講師にグローバル人材育成に果たす JASSO の役割と今後の課題について話していただく。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：政策・制度 (P)

(飯吉 透)

III-7. 主催・共催・協賛イベント一覧

年月日	イベント概要
2013.4.27 【共催】	滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 2013 年度「授業の基本」ワークショップ 『授業の基本と授業づくり』 授業の基本①－基本の基本－ 授業の基本②－授業展開上の罫－ 授業づくりワークショップ 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学交流センター研修室 1～3
6.28 【共催】	滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 2013 年度 FD 研修会「大学生への作文法指導」 講師：滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学A 2棟201教室
7.12 【協賛】	関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第 9 回関西大学 FD フォーラム 「アクティブ・ラーニングの方法、道具、環境」 講師：名古屋大学高等教育研究センター准教授 中井俊樹 於：関西大学千里山キャンパス第 2 学舎 2 号館 5 階 C507 教室
8.3 【協賛】	近畿大学教育改革推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 2013 年度第 1 回全学 FD 研究集会「グローバル人材の育成と大学の課題」 第一部：基調講演 近畿大学客員教授・文部科学省国立教育政策研究所統括客員研究員 徳永保 第二部：パネル・ディスカッション 近畿大学客員教授・文部科学省国立教育政策研究所統括客員研究員 徳永保 トムソン・ロイター シニア・ディレクター 棚橋佳子 近畿大学法学部教授 藤田直也 近畿大学経営学部教授・国際学生交流センター長 大村吉弘 近畿大学文芸学部准教授 李潤玉 近畿大学総合社会学部教授 秦辰也 近畿大学理工学部教授 中野人志 近畿大学工学部教授 高山智行 ファシリテーター 近畿大学経営学部教授・国際交流委員会委員長 浦崎直浩 於：近畿大学東大阪キャンパス本館7階ホール
8.19 【共催】	神戸薬科大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」ワークショップ 授業の基本①－基本の基本－ 授業の基本②－授業展開上の罫－ 授業づくりワークショップ

	講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：神戸薬科大学 11 号館 4 階 第 1 演習室
9.6 【共催】	大阪工業大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」ワークショップ 授業の基本①ー基本の基本ー 授業の基本②ー授業展開上の罫ー 教材研究ワークショップーグループワークとミニッツレクチャー実技ー 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：大阪工業大学大宮キャンパス
9.9-10 【共催】	関西学院大学高等教育推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「大学教員のための『講義方法のブラッシュアップ』」 9月9日（月） 講義「基本の基本」 「授業展開で陥りやすい罫」 ワークショップ「教材研究」 9月10日（火） 講義「発問法、アクティブラーニング法」 グループワーク「授業の完成」 授業発表会 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス G 号館 326 教室
9.19 【共催】	神戸大学大学教育推進機構主催 関西地区 FD 連絡協議会研究 WG FD デザイン研究 SG 共催 「学生の学習支援について ー教育学の知見を基盤とした学際的なアプローチー」 講師：東京大学大学院情報学環准教授 山内祐平 於：神戸大学大学教育推進機構 C 棟 401 号室
10.10 【協賛】	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛 第 86 回公開研究会 「深いアクティブ・ラーニングを創発させる学習評価とテクノロジー ーLearning Catalytics を中心にー」 開会挨拶：京都大学高等教育研究開発推進センター長 大塚雄作 趣旨説明：京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 講演+ワークショップ 「学びにおけるイノベーションの促進： PBL、TBL、Learning Catalytics を巡って」 ハーバード大学教授 エリック・マズール パネルディスカッション 司会：京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 パネリスト： 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 飯吉透

	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター准教授 溝上慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授 酒井博之 於：キャンパスプラザ京都 2F ホール</p>
11.16 【協賛】	<p>神戸国際大学大学教育センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 この国の未来のための高等教育改革に向けて「大学生き残り競争を超えて」 シンポジスト 合田哲雄（文部科学省高等教育局企画官） 葛城浩一（香川大学大学教育開発センター准教授） 松本美奈（読売新聞東京本社編集委員） 於：神戸国際大学 2 号館 4 階 2402 教室（ミカエルホール）</p>
12.4 【協賛】	<p>大阪大学教育学習支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 『学生主体』の授業デザインと運営方法 ～アクティブ・ラーニングの基盤体験セミナー～ 講師：The Bob Pike Group 名誉会長 ボブ・パイク ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社代表取締役・ The Bob Pike Group 認定マスタートレーナー 中村文子 於：大阪大学豊中キャンパス 全学教育推進機構 スチューデント・コモンズ 1 階 開放型セミナー室</p>
12.14 【共催】	<p>関西大学・津田塾大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 連携企画 WG 共催 「思考し表現する学生を育てる V ーレポート・ライティングに関する授業設計を考えるー」 第 1 部 講演 開会の挨拶 関西大学教育開発支援センター長 田中俊也 基調講演「レポート・ライティングの授業デザインを考える」 青山学院大学教育人間科学部准教授 杉谷祐美子 現状報告「初年次教育の経験ー読んだ、書いた、わかった？」 津田塾大学学芸学部教授 大島美穂 第 2 部 ラウンドテーブル ファシリテーター：関西大学教育推進部特別任用助教 小林至道 主旨説明「教員・職員・学生スタッフが連携した授業デザインを考える」 グループディスカッション グループ内での論議発表 講師からのコメント・全体での検討会 閉会の挨拶 総合司会：関西大学文学部教授 中澤努 於：関西大学第 2 学舎 2 号館 3 階 C301 教室</p>
12.16 【協賛】	<p>桃山学院大学主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 「異議あり！大学と就活 ～負のスパイラルを断ち切るために～」 基調講演：辻太一朗（NPO 法人 DSS 代表） 本田由紀（東京大学大学院教授） パネリスト：松本健志（日本生命保険相互会社人事部人材開発室育成課長） 井峯 武（桃山学院大学キャリアセンター事務課長） 桃山学院大学社会学部生</p>

	<p>司会：岩田考（桃山学院大学社会学部准教授） 於：桃山学院大学カンタベリーホール</p>
<p>12.20 【協賛】</p>	<p>兵庫教育大学主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第1回「兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研修会」 公開授業（授業科目：教育方法学） 授業担当者 授業実践開発コース講師 伊藤博之 授業研究会 授業担当者 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授 山田剛史 於：兵庫教育大学総合研究棟1階オープンセミナールーム</p>
<p>12.27 【協賛】</p>	<p>滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 「グループワークを授業で取り入れるための研修会」 「大学におけるグループワーク授業、授業実践例①」 木村裕（滋賀県立大学人間文化学部） 「IBL（Inquiry Based Learning）の実践報告（授業実践例②）」 荒川千登世（滋賀県立大学人間看護学部） 「グループワーク授業の実態と課題、授業実践例③」 柴田裕希（東邦大学理学部） 於：滋賀県立大学交流センター研修室1～3</p>
<p>2014.1.25 【協賛】</p>	<p>関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 第10回関西大学FDフォーラム 「アクティブラーニングことはじめ at&from Kansai University」 基調講演：関西大学教育推進部教授 三浦真琴 ポスターセッション フィードバック 於：関西大学千里山キャンパス第2学舎2号館C304</p>
<p>1.26 【協賛】</p>	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛 京都大学学術情報メディアセンター協力 大学 ICT 推進協議会（AXIES）後援 第87回公開研究会・国際シンポジウム 「学生の学びをどう記録し分析するか —MOOCs、アクティブラーニングと Learning Analytics をめぐって—」 開会挨拶：淡路敏之（京都大学理事（教育担当）） 基調講演：Philip Long（Professor/ Director, Center for Educational Innovation and Technology, University of Queensland） 「データを『レンズ』として利用し『学習の霧』を見通す —カゲロウか実体か？—」 講演：飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 「日本の高等教育改革とアナリティクスの可能性 —MOOC、オープンエデュケーション、ICT利用による教育支援を めぐって—」 指定討論1：美濃導彦（京都大学学術情報メディアセンター教授、 情報環境機構長、京都大学 CIO）</p>

	<p>「ICT 利用による大学教育支援の観点から」 指定討論 2：鳥居朋子（立命館大学教育開発推進機構教授） 「教育マネジメントの観点から」 指定討論 3：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 「アクティブラーニングの観点から」 パネルディスカッション モデレーター：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 閉会挨拶：大塚雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター長） 司会：酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 於：京都大学芝蘭会館稲盛ホール</p>
2.3 【共催】	<p>神戸大学大学教育推進機構主催 関西地区 FD 連絡協議会 研究 WG FD デザイン SG 共催 「高等教育進化論：グローバル化・オープン化・フラット化 の時代に 大学・教員・学生はどう変わるのか」 講師：飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 於：神戸大学大学教育推進機構 C 棟 401 号室</p>
3.14 【共催】	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会 広報 WG 共催 MOST 講習会 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明 酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） MOST 操作説明 参加者によるスナップショットの作成 於：京都大学</p>
3.17 【共催】	<p>神戸大学大学教育推進機構主催 関西地区 FD 連絡協議会 研究 WG FD デザイン SG 共催 「グローバル人材育成と JASSO」 講師：米川英樹（日本学生支援機構理事） 於：神戸大学大学教育推進機構 C 棟 401 号室</p>
3.18-19 【協賛】	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛 第 20 回大学教育研究フォーラム 開会の挨拶：松本紘（京都大学総長） シンポジウム：「学生の学びをどうデータ化し、どう利用するか？」 報告者： 小野和宏（新潟大学歯学部教授／副学長） 久保猛志（金沢工業大学副学長／教育点検評価支援担当） 上杉志成（京都大学物質－細胞統合システム拠点教授／副拠点長） 岡田圭子（獨協大学経済学部教授／全カリ英語部門担当／ GP 事業推進責任者） 指定討論者： 秋山卓也（文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室 室長補佐／大学評価専門官）</p>

	<p>司会：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） その他、個人研究発表、小講演、参加者企画セッション 於：京都大学 百周年時計台記念館・吉田南1号館・吉田南総合館</p>
<p>3.26 【協賛】</p>	<p>大阪大学教育学習支援センター主催 大阪大学全学教育推進機構共催 東京大学大学総合教育研究センター、関西地区FD連絡協議会協賛 大阪大学教育学習支援センター設立記念国際シンポジウム 「卓越したアカデミクスをどう育てるか？ ～研究大学における未来の大学教員養成の挑戦～」 基調講演「未来の研究大学とあるべき大学教員像」 吉見俊哉（東京大学副学長、大学総合教育研究センター長） 講演1「変容する博士課程教育－学生と指導教員への示唆－」 Jon Turner (Director, Institute for Academic Development, University of Edinburgh) 講演2「大学院生に向けた大学教員養成の取組み」 Deesha Chadha (Lecturer, King’s Learning Institute, King’s College London) 講演3「東京大学フューチャーファカルティプログラムのインパクト」 栗田佳代子（東京大学大学総合教育研究センター准教授） 講演4「名古屋大学における大学教員養成支援」 中井俊樹（名古屋大学高等教育研究センター准教授） 報告「大阪大学における大学教員養成と研究者開発の取組み」 竹村治雄（大阪大学教育学習支援センター長） 総合討論 パネリスト：吉見俊哉、Jon Turner、Deesha Chadha、中井俊樹、 中原淳（東京大学大学総合教育研究センター准教授）、竹村治雄 司会 佐藤浩章（大阪大学教育学習支援センター） 於：大阪大学豊中キャンパス大学会館講堂</p>

(中村 麻紀)